

令和元年度 第1回

杉並区区政モニターアンケート
「ふるさと納税と寄附文化について」

集計結果報告書



令和元年7月実施

杉並区総務部区政相談課

「ふるさと納税と寄附文化について」

調査の概要

1 調査の目的

「ふるさと納税」は「納税」といわれるものの、本来はふるさとや支援したい地域などを応援する寄附制度です。法律により一定の範囲で、寄附した額を所得税や住民税から控除(減税)されることから「ふるさと納税」と呼ばれています。

この「ふるさと納税制度」については、既に皆様もご存知のように、過剰な返礼品競争により、一部の自治体へ寄附が集中する一方で、特に都市部では住民税の流出(減収)が深刻な問題となっています。

杉並区では、ふるさと納税制度の問題点を指摘し、国へ問題提起をするとともに、制度が本来の目的である都市と地方との共存共栄や寄附文化の醸成を目指した取り組みを進めています。

また、区では返礼品競争には参加せず、お礼の品を障害者施設の製作品のみとし、寄附者の意向により、お礼の品を区内の児童養護施設などへプレゼントに振り替えることができる仕組みをつくり、障害者のやりがいや子どもたちの笑顔につながるよう、更なる社会貢献を目指しています。

このような区の姿勢を区民の方に理解していただくとともに、今後も杉並区のふるさと納税制度がより良いものとなるよう、区政モニターの方々のご意見をお聞きかせいただきたくアンケートを実施した。

2 調査期間

令和元年7月26日～8月22日

3 対象者

区政モニター 198名

4 回答者数

183人(回答率92.4%)

5 回答者構成

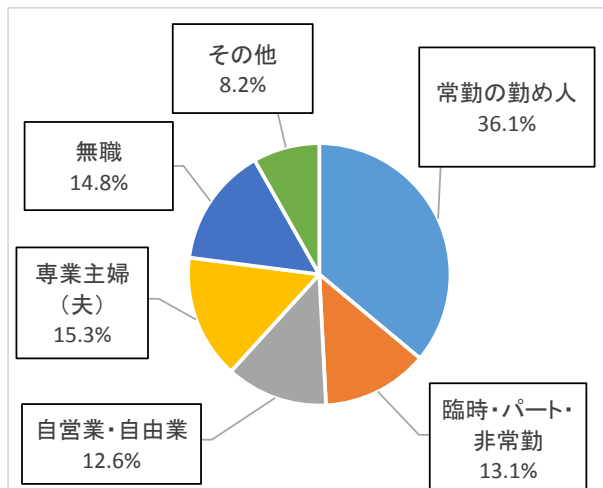
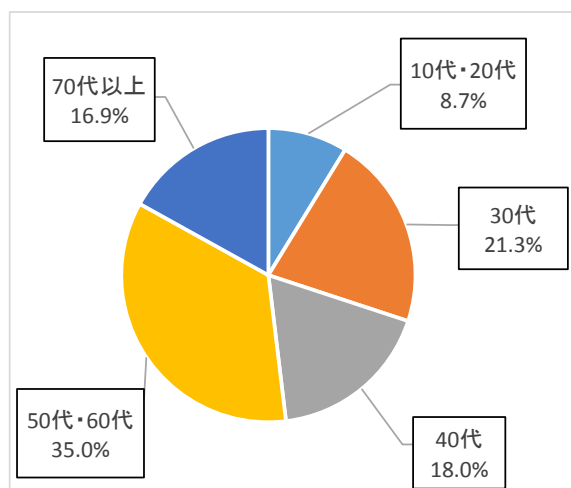
単位：人

〈年代別構成〉	10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上	合計
合計	16	39	33	64	31	183
割合	8.7%	21.3%	18.0%	35.0%	16.9%	100%

単位：人

	常勤の勤め人	臨時・パート・非常勤	自営業・自由業	専業主婦(夫)	無職	その他	合計
人数	66	24	23	28	27	15	183
割合	36.1%	13.1%	12.6%	15.3%	14.8%	8.2%	100%

※その他・・・学生・管理組合役員



6 集計結果の表示について

(1) 各項の初めにあるnは、回答者数を表しています。

(2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。

◆基本事項についてお聞きします。

問1 あなたの年齢は次のうちのどれですか。

問2 あなたの職業をお答えください。

※問1～問2の結果については、1頁『調査の概要「5 回答者構成」』のとおり

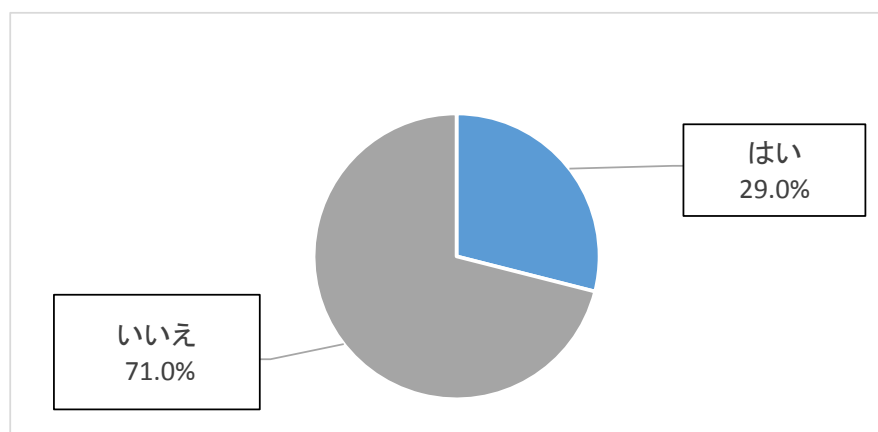
◆「ふるさと納税と寄附文化について」についてお尋ねします。

(全員にお尋ねします。)

問3 過去1年間にふるさと納税をしたことがありますか。(○は1つ)

n = 183

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
はい	53	29.0%	5	10	10	22	6
いいえ	130	71.0%	11	29	23	42	25
合計	183	100%	16	39	33	64	31



過去1年間にふるさと納税をしたことがあるか尋ねたところ、「いいえ」は7割を超え(71.0%)、「はい」は3割近く(29.0%)となった。

(以下、問4～問8は、問3で「1. はい」を選択した方にお尋ねします。)

問4. ふるさと納税の使い道は、どのような分野を選択しましたか。(複数回答可)

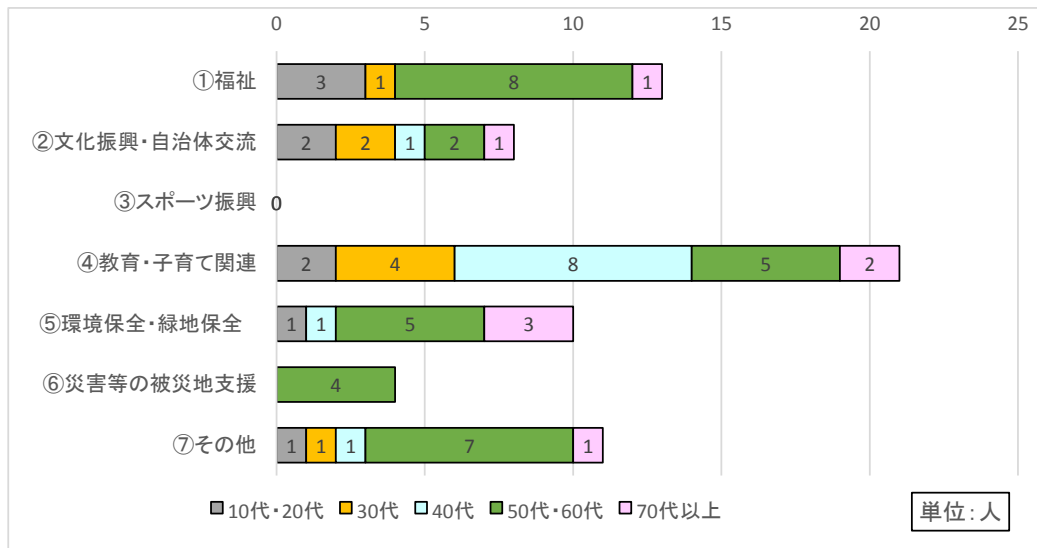
n = 43

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
	人数	割合					
①福祉	13	30.2%	3	1	0	8	1
②文化振興・自治体交流	8	18.6%	2	2	1	2	1
③スポーツ振興	0	0.0%	0	0	0	0	0
④教育・子育て関連	21	48.8%	2	4	8	5	2
⑤環境保全・緑地保全	10	23.3%	1	0	1	5	3
⑥災害等の被災地支援	4	9.3%	0	0	0	4	0
⑦その他	11	25.6%	1	1	1	7	1
合計	67	—	9	8	11	31	8

回答未選択: 10

※その他・・・

自治体にお任せ(自治体で必要と思っている施策に使ってほしいため)・木製品・基盤整備(インフラ整備)・使い道は一切考慮しなかった・医療分野など。



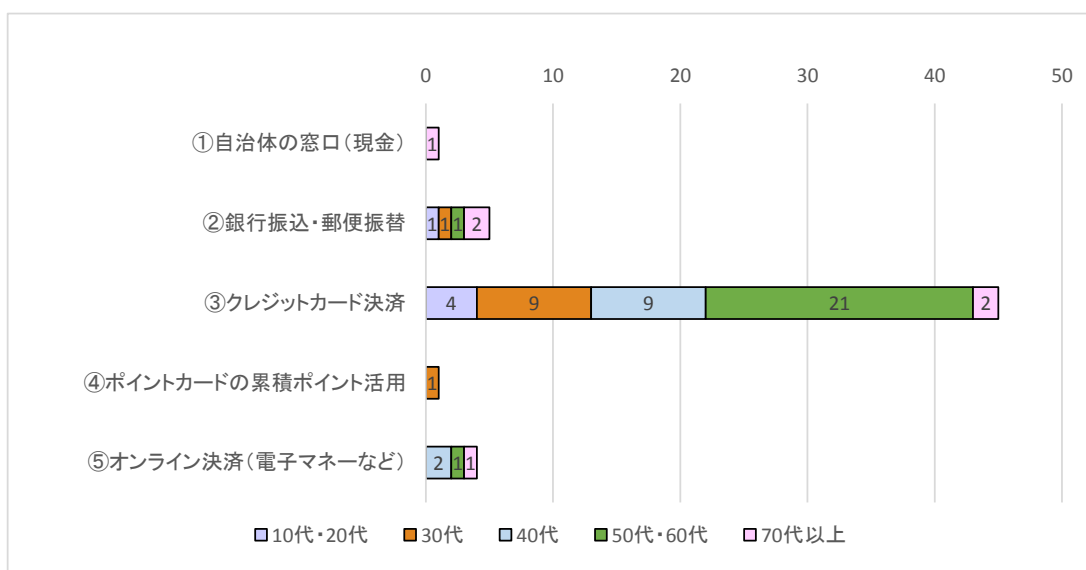
問3で「1. はい」を選択した方に

ふるさと納税の使い道は、どのような分野を選択したかを尋ねところ、「④教育・子育て関連」が5割近く(48.8%)、「①福祉」が約3割(30.2%)、「⑦その他」が2割半ば(25.6%)となった。

問5. どのような方法で寄附しましたか。(複数回答可)

n = 53

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①自治体の窓口(現金)	1	1.9%	0	0	0	0	1
②銀行振込・郵便振替	5	9.4%	1	1	0	1	2
③クレジットカード決済	45	84.9%	4	9	9	21	2
④ポイントカードの累積ポイント活用	1	1.9%	0	1	0	0	0
⑤オンライン決済(電子マネーなど)	4	7.5%	0	0	2	1	1
合計	56	—	5	11	11	23	6



問3で「1. はい」を選択した方に
 どのような方法で寄附したか尋ねたところ、「③クレジットカード決済」が8割半ば(84.9%)で一番多かった。
 ②銀行振込・郵便振替(9.4%)と⑤オンライン決済(電子マネーなど)(7.5%)がそれぞれ1割近くで続いた。

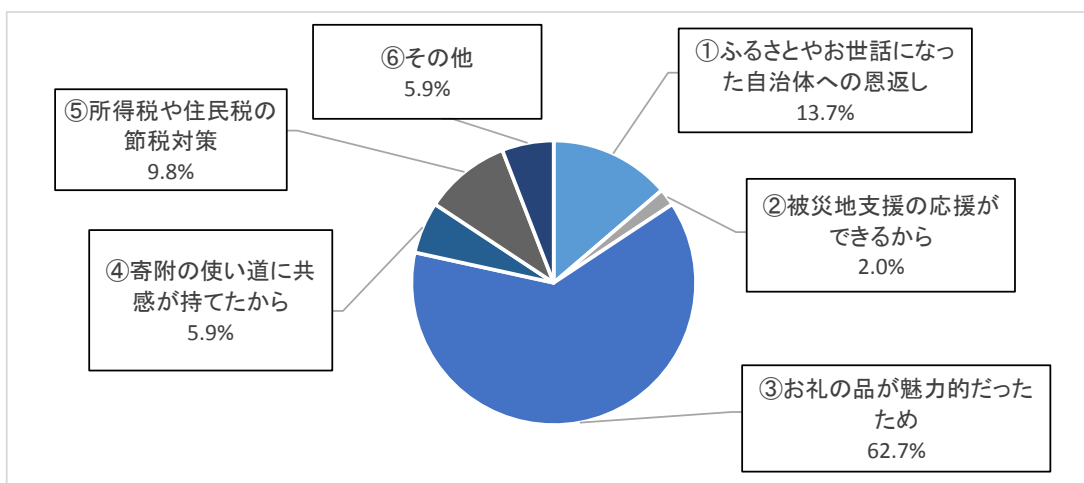
問6. ふるさと納税をした主な動機は何ですか。(〇は1つ)

n = 51

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①ふるさとやお世話になった自治体への恩返し	7	13.7%	0	3	0	3	1
②被災地支援の応援ができるから	1	2.0%	0	0	0	1	0
③お礼の品が魅力的だったため	32	62.7%	4	6	6	13	3
④寄附の使い道に共感が持てたから	3	5.9%	0	1	0	2	0
⑤所得税や住民税の節税対策	5	9.8%	0	0	4	0	1
⑥その他	3	5.9%	0	0	0	2	1
合計	51	100%	4	10	10	21	6

回答未選択: 2

※その他・・・
地方自治体の支援・返礼品

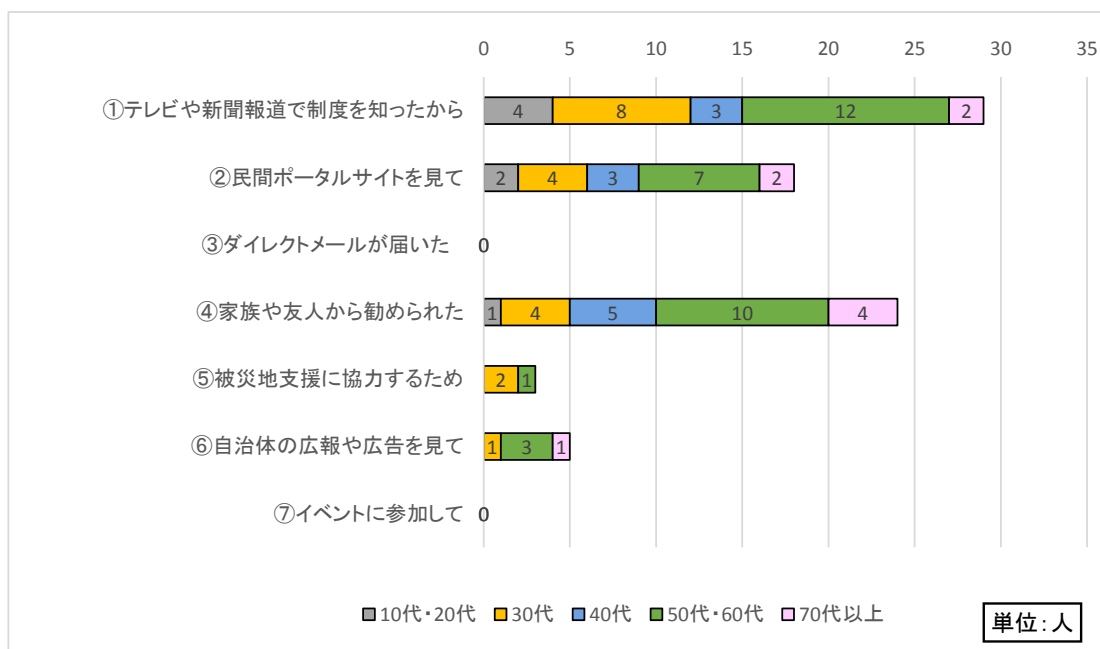


問3で「1. はい」を選択した方にふるさと納税をした主な動機は何か尋ねたところ、「③お礼の品が魅力的だったため」が6割を超えた(62.7%)。次いで「①ふるさとやお世話になった自治体への恩返し」が1割半ば(13.7%)、「⑤所得税や住民税の節税対策」が約1割(9.8%)となった。

問7. ふるさと納税をしたきっかけは何ですか。（複数回答可）

n = 53

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①テレビや新聞報道で制度を知ったから	29	54.7%	4	8	3	12	2
②民間ポータルサイトを見て	18	34.0%	2	4	3	7	2
③ダイレクトメールが届いた	0	0.0%	0	0	0	0	0
④家族や友人から勧められた	24	45.3%	1	4	5	10	4
⑤被災地支援に協力するため	3	5.7%	0	2	0	1	0
⑥自治体の広報や広告を見て	5	9.4%	0	1	0	3	1
⑦イベントに参加して	0	0.0%	0	0	0	0	0
合計	79	-	7	19	11	33	9

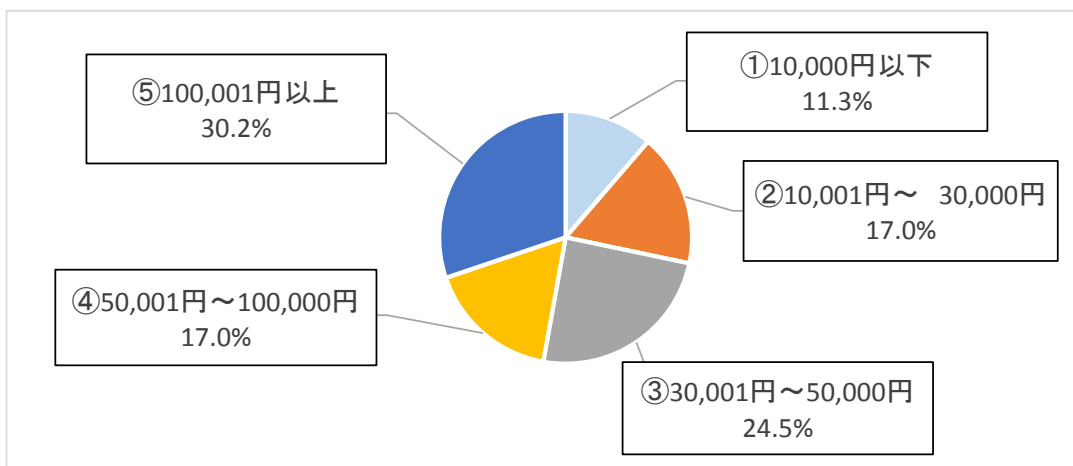


問3で「1. はい」を選択した方に、ふるさと納税をしたきっかけは何か尋ねたところ、「①テレビや新聞報道で制度を知ったから」が5割半ば（54.7%）、「④家族や友人から勧められた」が4割半ば（45.3%）、「②民間ポータルサイトを見て」が3割半ばとなった（34.0%）。

問8. 過去1年間のふるさと納税の総額はいくらですか。(〇は1つ)

n = 53

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
	①10,000円以下	6	11.3%	1	2	2	1
②10,001円～ 30,000円	9	17.0%	1	2	1	4	1
③30,001円～50,000円	13	24.5%	1	0	4	6	2
④50,001円～100,000円	9	17.0%	1	2	1	2	3
⑤100,001円以上	16	30.2%	1	4	2	9	0
合計	53	100%	5	10	10	22	6



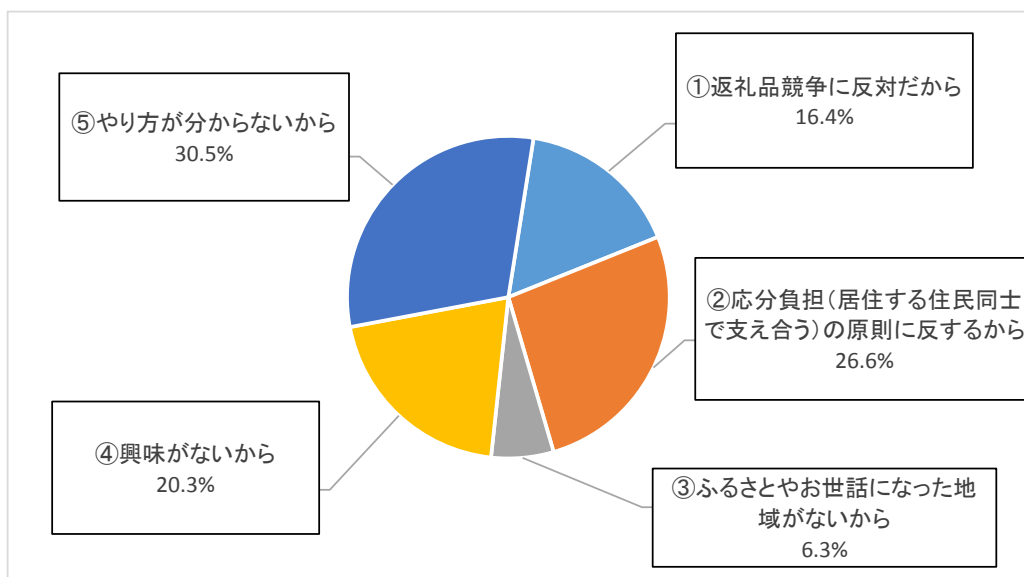
問3で「1. はい」を選択した方に過去1年間のふるさと納税の総額はいくらか尋ねたところ、「⑤100,001円以上」は約3割(30.2%)、「③30,001円～50,000円」は2割半ば(24.5%)、「②10,001円～30,000円」と「④50,001円～100,000円」が2割近く(17.0%)となった。

(問3で「2. いいえ」を選択した方にお尋ねします。)

問9. ふるさと納税をしたことがない理由は何ですか。(〇は1つ)

		n = 128					
		全体	10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①返礼品競争に反対だから	21	16.4%	1	3	3	9	5
②応分負担(居住する住民同士で支え合う)の原則に反するから	34	26.6%	0	4	4	15	11
③ふるさとやお世話になった地域がないから	8	6.3%	2	3	1	1	1
④興味がないから	26	20.3%	3	9	3	8	3
⑤やり方が分からないから	39	30.5%	5	10	12	9	3
合計	128	100%	11	29	23	42	23

回答未選択: 2



問3で「2. いいえ」を選択した方にふるさと納税をしたことがない理由は何か尋ねたところ、「⑤やり方が分からないから」が3割を超え(30.5%)、「②応分負担(居住する住民同士で支え合う)の原則に反するから」が3割近く(26.6%)、「④興味がないから」が約2割(20.3%)となった。

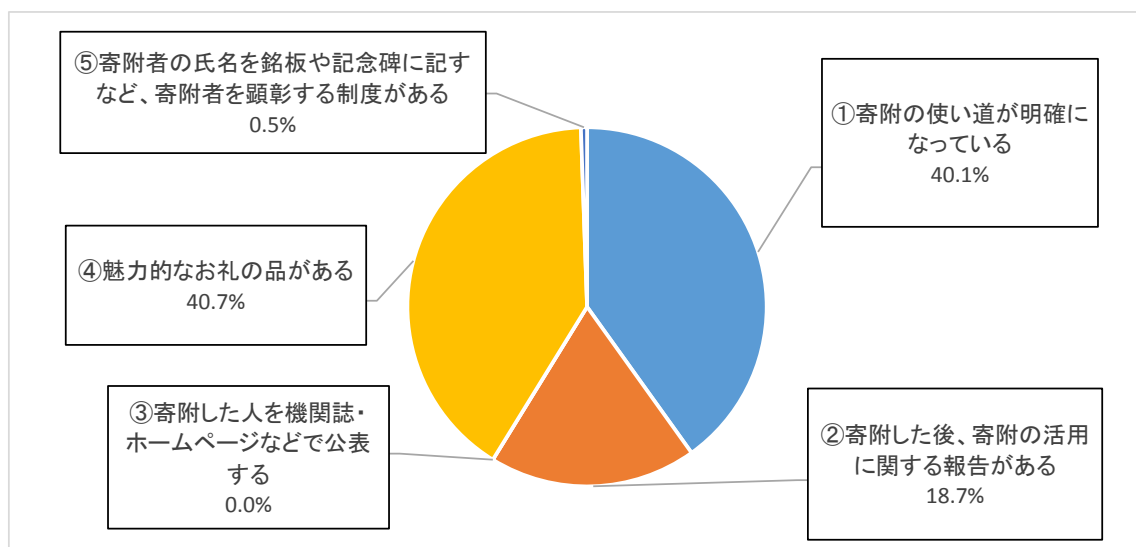
(全員にお尋ねします。)

問10. ふるさと納税をする場合に、重要なポイントとなる点を教えてください。(○は1つ)

n = 182

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①寄附の使い道が明確になっている	73	40.1%	3	11	10	32	17
②寄附した後、寄附の活用に関する報告がある	34	18.7%	3	6	6	13	6
③寄附した人を機関誌・ホームページなどで公表する	0	0.0%	0	0	0	0	0
④魅力的なお礼の品がある	74	40.7%	10	22	17	18	7
⑤寄附者の氏名を銘板や記念碑に記すなど、寄附者を顕彰する制度がある	1	0.5%	0	0	0	0	1
合計	182	100%	16	39	33	63	31

回答未選択: 1



ふるさと納税をする場合に、重要なポイントとなる点を尋ねたところ、「④魅力的なお礼の品がある」が4割を超え(40.7%)、「①寄附の使い道が明確になっている」が約4割(40.1%)、「②寄附した後、寄附の活用に関する報告がある」が2割近く(18.7%)となった。

問11. ふるさと納税をするのであれば、どのような分野の活動を支援したいですか。
(〇は2つまで)

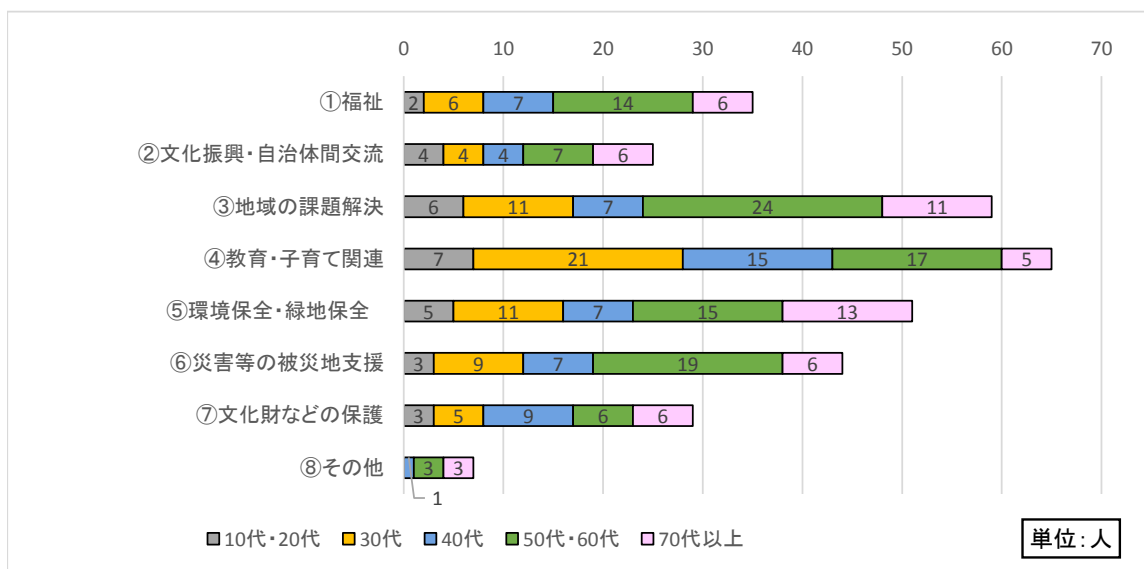
n = 181

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①福祉	35	19.3%	2	6	7	14	6
②文化振興・自治体間交流	25	13.8%	4	4	4	7	6
③地域の課題解決	59	32.6%	6	11	7	24	11
④教育・子育て関連	65	35.9%	7	21	15	17	5
⑤環境保全・緑地保全	51	28.2%	5	11	7	15	13
⑥災害等の被災地支援	44	24.3%	3	9	7	19	6
⑦文化財などの保護	29	16.0%	3	5	9	6	6
⑧その他	7	3.9%	0	0	1	3	3
合計	315	—	30	67	57	105	56

回答未選択: 2

※その他・・・

- ・「寄附」であるから、その地域特性に合ったものでボランティアに頼らざるをえないものに限るべき。
- ・共感が持てる活動内容であり、資金の不足によりふるさと納税を望む団体
- ・返礼品の魅力
- ・町並み整備
- ・その地域で必要な所に使用すれば良い。
- ・防犯対策や交通安全対策(ガードレールやポールなどハード面)
- ・特に支援したい分野はない。

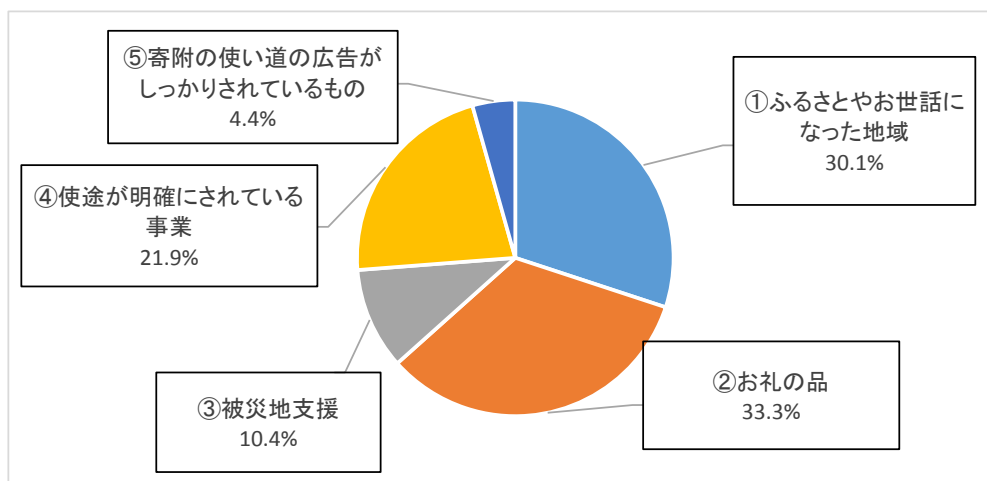


ふるさと納税をするのであれば、どのような分野の活動を支援したいか尋ねたところ、「④教育・子育て関連」が3割半ば(35.9%)、「③地域の課題解決」が3割超え(32.6%)、「⑤環境保全・緑地保全」が3割近く(28.2%)となった。

問12. ふるさと納税をするのであれば、どのような指標で寄附先の自治体を選びますか。(〇は1つ)

n = 183

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
	①ふるさとやお世話になった地域	55	30.1%	7	17	6	18
②お礼の品	61	33.3%	8	15	16	16	6
③被災地支援	19	10.4%	1	1	5	7	5
④使途が明確にされている事業	40	21.9%	0	5	5	18	12
⑤寄附の使い道の広告がしっかりされているもの	8	4.4%	0	1	1	5	1
合計	183	100%	16	39	33	64	31



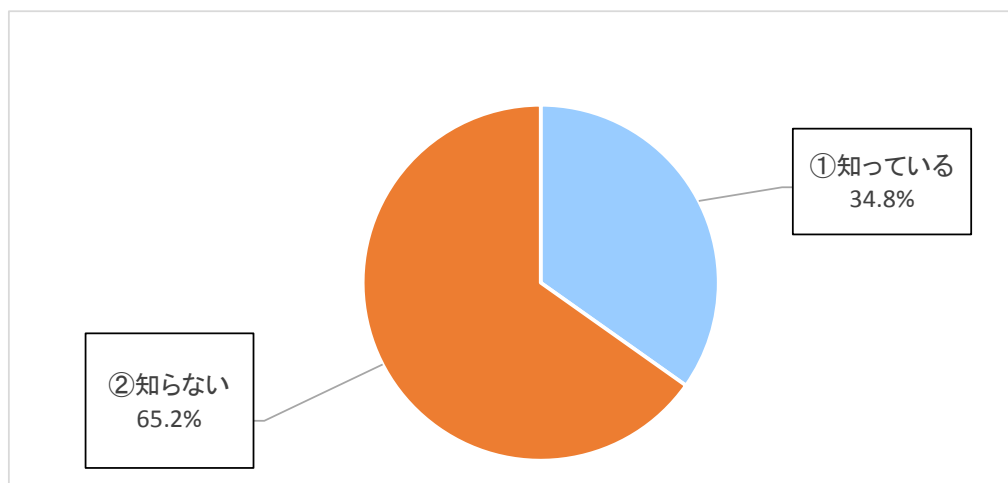
ふるさと納税をするのであれば、どのような指標で寄附先の自治体を選ぶか尋ねたところ、「②お礼の品」が3割を超え(33.3%)、「①ふるさとやお世話になった地域」が約3割(30.1%)、「④使途が明確にされている事業」が2割を超えた(21.9%)。

問13. 杉並区民でも杉並区にふるさと納税ができる事をご存じですか。
 (〇は1つ)

n = 181

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①知っている	63	34.8%	4	14	13	23	9
②知らない	118	65.2%	12	25	20	41	20
合計	181	100%	16	39	33	64	29

回答未選択:2

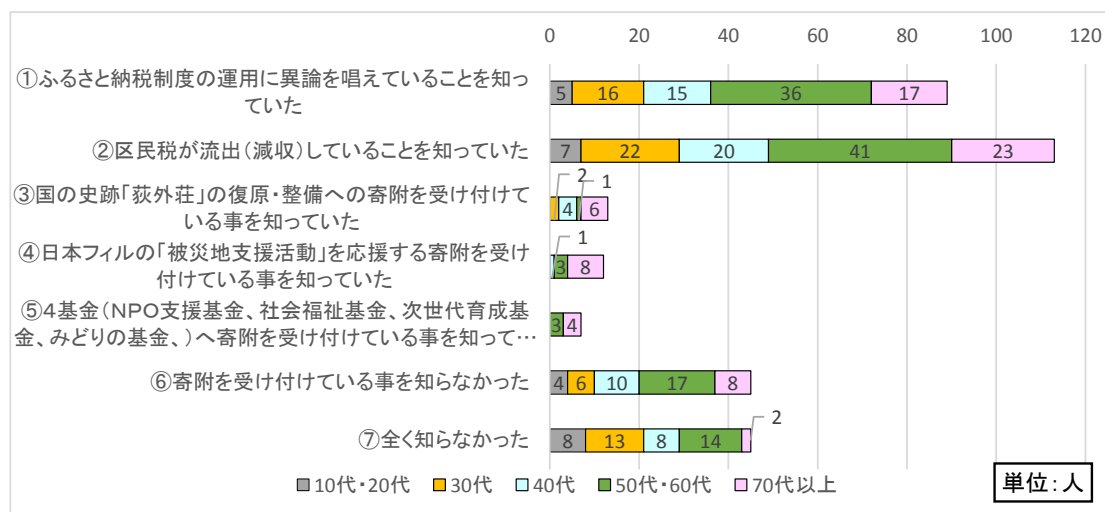


杉並区民でも杉並区にふるさと納税ができる事を知っているか尋ねたところ、「①知っている」は3割半ば(34.8%)、「②知らない」は6割半ば(65.2%)だった。

問14. 杉並区のふるさと納税に対する取組み（冒頭のリード文で概要説明）を知っていましたか。（複数選択可）

n = 183

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①ふるさと納税制度の運用に異論を唱えていることを知っていた	89	48.6%	5	16	15	36	17
②区民税が流出（減収）していることを知っていた	113	61.7%	7	22	20	41	23
③国の史跡「荻外荘」の復原・整備への寄附を受け付けている事を知っていた	13	7.1%	0	2	4	1	6
④日本フィルの「被災地支援活動」を応援する寄附を受け付けている事を知っていた	12	6.6%	0	0	1	3	8
⑤4基金（NPO支援基金、社会福祉基金、次世代育成基金、みどりの基金、）へ寄附を受け付けている事を知っていた	7	3.8%	0	0	0	3	4
⑥寄附を受け付けている事を知らなかった	45	24.6%	4	6	10	17	8
⑦全く知らなかった	45	24.6%	8	13	8	14	2
合計	324	—	24	59	58	115	68



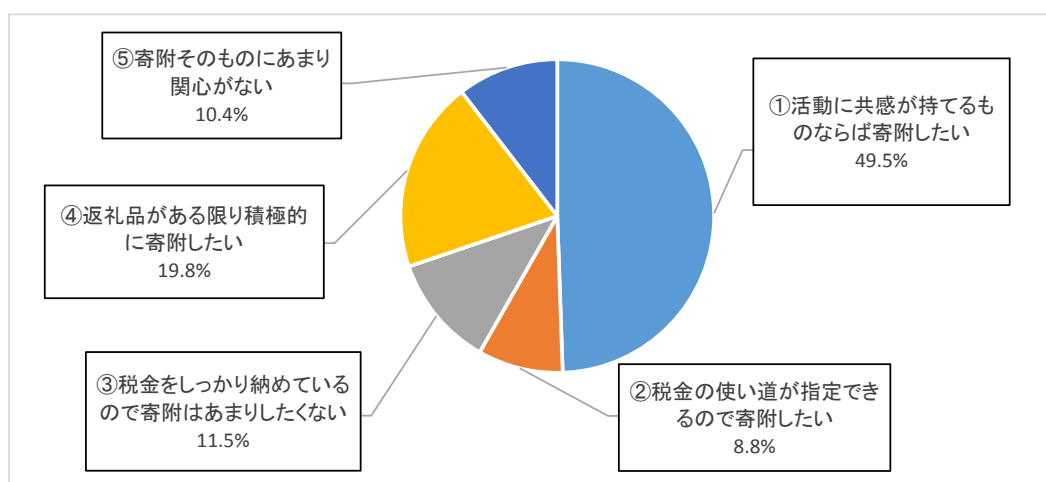
杉並区のふるさと納税に対する取組み（冒頭のリード文で概要説明）を知っていたか尋ねたところ、「②区民税が流出（減収）していることを知っていた」は6割を超えた(61.7%)。次いで「①ふるさと納税制度の運用に異論を唱えていることを知っていた」は5割近く(48.6%)、「⑥寄附を受け付けている事を知らなかった」と「⑦全く知らなかった」が2割半ば(24.6%)となった。

問15. ふるさと納税に対してどのように考えますか。(〇は1つ)

n = 182

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①活動に共感が持てるものならば寄附したい	90	49.5%	8	20	16	31	15
②税金の使い道が指定できるので寄附したい	16	8.8%	2	3	1	8	2
③税金をしっかり納めているので寄附はあまりしたくない	21	11.5%	0	0	3	10	8
④返礼品がある限り積極的に寄附したい	36	19.8%	4	11	10	6	5
⑤寄附そのものにあまり関心がない	19	10.4%	2	5	3	8	1
合計	182	100%	16	39	33	63	31

回答未選択: 1



ふるさと納税に対してどのように考えているか尋ねたところ、「①活動に共感が持てるものならば寄附したい」は約5割(49.5%)、次いで「④返礼品がある限り積極的に寄附したい」が約2割(19.8%)、「③税金をしっかり納めているので寄附はあまりしたくない」が1割を超えた(11.5%)。

問16. 「ふるさと納税制度」についてあなたのお考えをお聞きします。
(複数回答可)

n= 182

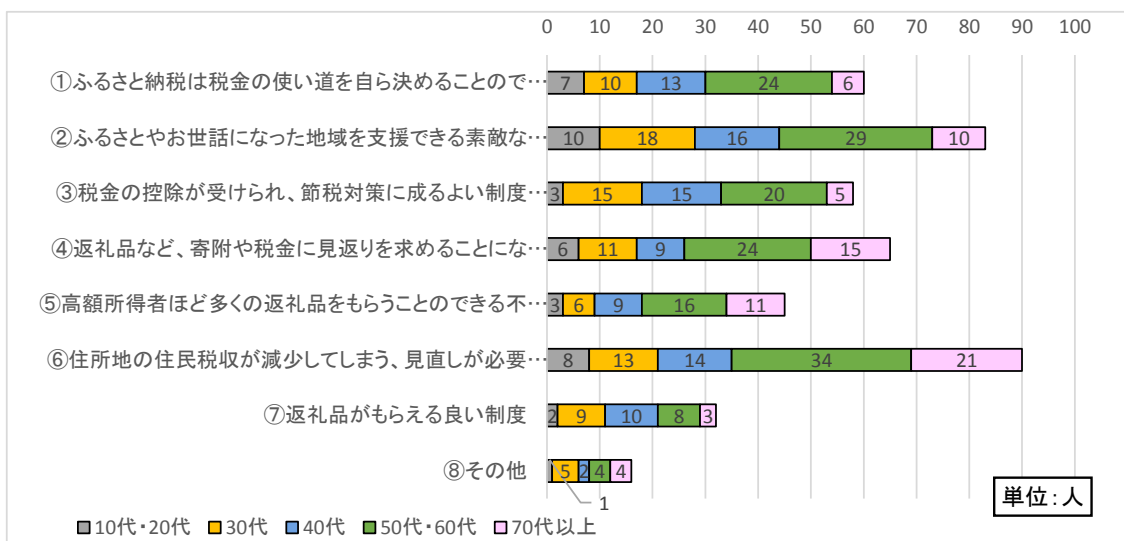
	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①ふるさと納税は税金の使い道を自ら決めることのできる良い制度である	60	33.0%	7	10	13	24	6
②ふるさとやお世話になった地域を支援できる素敵な制度である	83	45.6%	10	18	16	29	10
③税金の控除が受けられ、節税対策に成るよい制度である	58	31.9%	3	15	15	20	5
④返礼品など、寄附や税金に見返りを求めることになるおかしな制度である	65	35.7%	6	11	9	24	15
⑤高額所得者ほど多くの返礼品をもらうことのできる不公平な制度である	45	24.7%	3	6	9	16	11
⑥住所地の住民税収が減少してしまう、見直しが必要な制度である	90	49.5%	8	13	14	34	21
⑦返礼品がもらえる良い制度	32	17.6%	2	9	10	8	3
⑧その他	16	8.8%	1	5	2	4	4
合計	449	—	40	87	88	159	75

回答未選択: 1

※その他・・・

- ・ 主人の仕事が嘱託になり収入が減ったため、余裕があれば使い道を選んだ納税をしたいと思うが、なかなか難しい状況である。
- ・ 地方活性化という側面もあり、現状でも良い制度と考えます。
地方出身者が東京に多く移住することで、地方から見たら税収が関東圏に一極集中してしまっているように見えると思うので、税収分散はある程度は仕方ないと思います。
本来は返礼品等目当てではなく自発的に出身地域等に寄附をするのが理想ですが、一般の人の感覚ではわかりやすい返礼品というメリットがないと制度自体の知名度も上がらなかったため過度な返礼品競争になっても仕方なかったのかなと思います。
ただ、制度自体の知名度も向上した現在は次のステップ(返礼品などではない本来の目的に即した寄附の動機づけ)に進む必要があると思いますので、杉並区の活動は賛成です。
ただ、現状制度の否定に走るのではなく、よりいい制度に、という意識で考えてほしいと思います。(いきなり寄附の側面を前面に押し出しても利用者の意識がついていかないと思います。)
- ・ 基本的に寄附と納税をリンクさせる事に違和感を感じる。
- ・ 税の本来趣旨に反する。税は、「個々人では出来ない、或いは効果効率が悪い」公共財の取得や公共サービスのための費用であるべき。従って、受益権は同じ地域の住民にある。憲法に抵触の恐れ。
- ・ 手法は民間商法の真似。客寄せのおまけ商法であり、民間でさえ、公正取引上の制約がある。
- ・ 国民の射幸心を煽る。「納税」という厳正な行為を、お遊び感覚で扱っている。
- ・ 特に興味がない。自分が住んでいる区にきちんと税を納めているのであればそれでいいと思う。
- ・ 税金が安くなるのであれば良い。

- ・ふるさと納税は税金の使い道を自ら決めることのできる問題のある制度である。誰にも興味をもたれなければ、たとえ必要なことでも取り組まれなくなっていくという事。それは営利企業の特権であり公に許されません。
知識を仕入れる時間を確保できる人ほど節税したり、返礼品をもらうことのできる不公平な制度であると思います。
- ・ふるさと納税は早くなくなればよいと内心思っている。
- ・いまいち良くわからない制度である。でも正直返礼品があると嬉しい制度だと思う。
- ・住所地に納税後ポケットマネー等を寄附すれば、と思う。
- ・地域の魅力的な返礼品を用意して、各自治体が競争することは良いと思う。一定の条件を設けての自由な競争がある所に創意工夫が生まれる。
- ・都市への集中を再配分をする点でよい制度だが、杉並区のふるさと納税は組織、ビジョンを見直すべき。今の内容では区民税は流出してしまう。区民税の流出は大きな問題なので、区全体で熱心に取り組むべき課題。
- ・杉並区において社会福祉方面に使うのはどうかと思う。弱い立場の者は国や自治体を守るべき。ふるさと納税をあてるのは多くの人に還元することを目指すべきである。環境保全、文化施設の補填など、多くの人に還元できるものに使うべき。
- ・ふるさとやお世話になった地域を支援できる制度で素敵だと思うが、本来の意図とは違う形になっているのが懸念される。「お得」や「利益」が重視されている所に違和感がある。
- ・自治体が自らアイデアで切磋琢磨するにはいい制度である。返礼品でなく内容で評価されるべき。
- ・お金が必要な地域(被災地や災害)に寄附する事はとても良いが、返礼品を目当てにするのは違うと思います。



「ふるさと納税制度」についての考えを尋ねたところ、「⑥住所地の住民税収が減少してしまう、見直しが必要な制度である」が約5割(49.5%)、「②ふるさとやお世話になった地域を支援できる素敵な制度である」が4割半ば(45.6%)、「④返礼品など、寄附や税金に見返りを求めることになるおかしな制度である」が3割半ば(35.7%)となった。

問17. 杉並区のふるさと納税制度の取組みの中で、今後とも力を入れるべきと思う項目を選んでください。(〇は1つ)

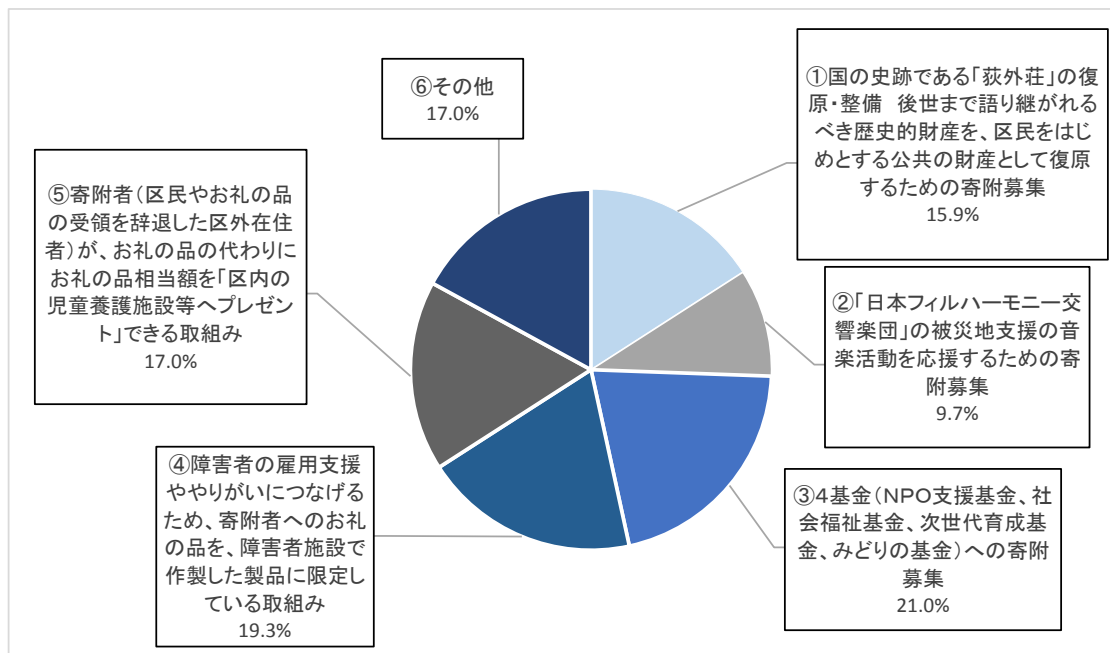
N= 183

	全体		10代・20代	30代	40代	50代・60代	70代以上
①国の史跡である「荻外荘」の復原・整備 後世まで語り継がれるべき歴史的財産を、区民をはじめとする公共の財産として復原するための寄附募集	28	15.9%	1	7	5	11	4
②「日本フィルハーモニー交響楽団」の被災地支援の音楽活動を応援するための寄附募集	17	9.7%	1	4	2	5	5
③4基金(NPO支援基金、社会福祉基金、次世代育成基金、みどりの基金)への寄附募集	37	21.0%	6	5	6	11	9
④障害者の雇用支援ややりがいにつなげるため、寄附者へのお礼の品を、障害者施設で作製した製品に限定している取組み	34	19.3%	3	4	5	15	7
⑤寄附者(区民やお礼の品の受領を辞退した区外在住者)が、お礼の品の代わりにお礼の品相当額を「区内の児童養護施設等へプレゼント」できる取組み	30	17.0%	3	10	4	8	5
⑥その他	30	17.0%	3	10	4	8	5
合計	176	100%	17	40	26	58	35

※その他・・・

- ・ 成田西のふれあい農業公園等での収穫体験、体育館や運動場等の利用やイベントに参加出来る権利があったら子供は喜ぶと思います。
- ・ 納税者にとって、もっと身近でメリットがあると思える活動や取組みを検討することも大事ではないでしょうか？身近な活動、取組みであれば、ふるさと納税に参加しやすいと思います。
- ・ 区内の子供達が利用する施設や場所の環境整備
- ・ ある程度の返礼(商店街のクーポン等)があったほうが、最初から返礼品ゼロにするよりも利用者への浸透の側面から現実的だと考えます。
- ・ 児童生徒一人一人が利用できる端末を購入し、デジタル教科書での授業を先進校だけでなく、全ての小中学校で実施して貰いたい。既に計画等はあるのかも知れませんが、杉並区のHPを見る限りでは状況がよくわかりませんでした。
- ・ 特別養護老人ホームの建設資金に充当
- ・ 制度を廃止すべき。選択肢は、杉並区が希望する内容。また、当区だけがふるさと納税の趣旨を全うしても意味ない。全国的問題。
- ・ ふるさと納税をしたことがないので、今まで内容を知りませんでしたが、杉並区の取り組み内容では、ふるさと納税が増えないと思います。というのも、積極的にふるさと納税をしている人の話を聞くと、明らかに返礼品のためです。魅力的な返礼品(特に肉やフルーツなどの食品でお得感のあるもの)のためにされている方がほぼ100%。ですから、人々の善意に重点を置いた杉並区の取り組みでは、明らかに納税者を他に逃がしてしまうと思います。
- ・ 杉並生まれだが1の「荻外荘」の存在を初めて知りました。
1～5ともインパクトに欠けていて、わかりづらいです。そして、実際に使われている実感が持てない。2は良いとして、ふるさと納税の収入で、きれいな公園作るよ！(南池袋公園のような)みたいな、実感が持てる取り組みを入れてほしい。
- ・ 杉並区にしかできない返礼品を考える。
- ・ 文化や芸術関連の支援
- ・ 杉並区の特産品を募集し、全国納税者のニーズに合う商品・食品を地場産業振興を兼ねて選抜する。更に『阿佐ヶ谷Jazz Street』等の有名イベントへの招待、更にプラス・アルファの体験イベントなどを組合わせた独創的な企画を提案します。
- ・ 区内の狭あい道路における無電柱化。
- ・ ふるさと納税は、税金の控除が受けられて節税になる、というのが大きな魅力であるが、これだけ全国で魅力ある返礼品が出てきたら、返礼品で選んでしまうのは仕方ないと思う。上記の取り組みだとあまりピンとこない理由は、身近に感じないと教育や福祉などの問題解決に取り組んでほしいと思うから。
- ・ 区内の小中学校のPTAへの寄附が選べて、寄附したら役員免除とかの特権が付いたら、積極的に杉並区に寄附する。杉並区に寄附した場合の自分へのメリットが現状無いため、杉並区にはふるさと納税しない。高尚な理念に基づく寄附は、遺贈で十分だと感じている。
- ・ 多様な価値観を持つ人々に対して適合する様々な選択肢を提供することが重要と考える。
- ・ 街づくり整備等に広く使うべき

- ・ 教育、子育て支援
- ・ 補正予算的な最近突発で起こる自然災害や高齢者運転の事故などの対策専門に。
- ・ 区が指定した寄附先を選ぶだけでなく、活動資金が不足している団体に応募させる方法もできるのではないのでしょうか。
- ・ 環境、治安、その他、住民生活のメリットを享受できる施策に使うのなら、他の自治体に寄附はしない。
- ・ 保育園の充実や公園整備など、福祉に注力する施策。
- ・ まずは広報に力を入れる。
- ・ 特定の取り組みも良いが、寄附金の使途を問4や問11のような選択肢から選べるようにしてほしい。
- ・ ふるさと納税の主旨を誤解していました。他の地区にふるさと納税をしないように、区民に訴えると共にふるさと納税そのものを中止するよう国に働きかけたら如何でしょうか。
- ・ 子育て支援(イベント・応援券)
- ・ 杉並区の税金で対応できないのか。どのくらい不足なのか。
- ・ ぜいたくな使い道もいくつかあるように思います。
- ・ 使途を限定せず、杉並区内の事業者から返礼品を公募してはいかがでしょうか。
- ・ 住みやすい町、町なみをよくするなど品位のある杉並を目ざす。
- ・ 制度そのものをやめる(杉並区だけでなく全国的に)。
- ・ 魅力ある返礼品を用意する。
- ・ 一つにしぼらず均等に分ければ良いと思う。
- ・ 動物愛護への取り組み、例えば野良ネコの去勢避妊手術の負担や、現在飼っている人々へのマナーの啓発、災害時の際のペットと避難できる場所の確保、ドームテントの費用。
- ・ 子育て関連
- ・ 電子メール・facebook・Twitter
- ・ 興味なし
- ・ 阿佐ヶ谷会(阿佐谷図書館に資料あり)の文学、小説、詩をひろめる取組み。木山捷平の文学が素晴らしい。
- ・ 芸術関連の寄附をしてほしい。
- ・ 公園、運動文化施設等の充実
- ・ 制度の廃止
- ・ 子どもの教育費・保育や老人介護に直接還元できる取組み
- ・ インスタグラムで写真と共にアップすると効果があるかもしれないです。



杉並区のふるさと納税制度の取組みの中で、今後とも力を入れるべきと思うか尋ねたところ、「③4基金 (NPO支援基金、社会福祉基金、次世代育成基金、みどりの基金)への寄附募集」が2割を超えた(21.0%)。次いで「④障害者の雇用支援 やりがいにつなげるため、寄附者へのお礼の品を、障害者施設で作製した製品に限定している取組み」が2割近く(19.3%)、「⑤寄附者 (区民やお礼の品の受領を辞退した区外在住者)が、お礼の品の代わりにお礼の品相当額を「区内の児童養護施設等へプレゼント」できる取組み」と「⑥その他」が2割近く(17.0%)となった。

問18. 区のふるさと納税制度に対する取組みについて、広報すぎなみや区公式ホームページ (Facebook、Twitterを含む)などで発信してきましたが、より多くの方に知って頂くために、皆様が普段活用している情報収集の媒体や方法について教えてください。

- 広報すぎなみ・すぎなみスタイル・チラシ類
- 最近、駅に表示している広告が減ってきて、逆に気になるようになりました。区内の駅にポスターや広告を掲示してはどうでしょうか？
- ふるさと納税をまとめたWebサイト
- 区の広報とホームページの2種類です。
- 新聞、雑誌、インターネット
- Twitter
- 商店街のポスターやチラシ
- 設問で列挙されているものの他には、メール、新聞記事(ネットニュース含む)から情報を得ています。
- インターネット・ツイッター・Instagram・YouTube
- 認知度を高めるにはテレビが効果的で、単発ではなく、継続して情報を発信していくことで、認知度や理解度は高まるのではないかと思います。
ネットを利用する場合は、著名人などインフルエンサーになる方にも協力してもらい、情報を広めるやり方が良いかと思います。ただ、情報発信する際は、閲覧者、閲読者にとって興味を持つ内容でなければ、なかなか目に止まらないのではないかと思います。
- ラジオ、区民センター
- NHKのニュース、ネットニュース、インスタグラム、地域の掲示板
- Instagram、SmartNewsなど、若い世代はInstagramが圧倒的です。
- 基本的には居住する地域での納税を主とし、節約分を文化・芸術などへの寄附としたい。杉並区の税収状況を随時広報・ホームページなどで報告し、制度を立ち上げた主旨に反する制度の改善を働きかける必要がある。
- あまりお金(税金)をかけない方法が望ましい。ロコミ
- Facebookとyahooニュースによって得る情報が多い。
- 東京都内の自治体と共同で、新聞広告を打つなどして主張すべき。
- 広告新聞やテレビ、インターネット
- ポストに冊子ではなく簡単なチラシでも入っていたら目に留まりやすいと思います。
(冊子はしっかり読まなきゃいけないため、まずは目に入ることを重視)
- 能動的に情報を集める場合は、区の公式HPを見に行きますが、基本的に知りたい情報までたど着けません。そもそも掲載されていないのかも知れませんが。情報提供する媒体の問題ではなく、区民はどのような情報が見たいのかという視点に立った情報の整理が必要と感じました。
個人的には、児童生徒一人一人が利用できる端末を購入し、デジタル教科書での授業を先進校だけでなく、全ての小中学校で実施して貰いたいと考えております。杉並区のHPを見る限りでは、計画があるのか、検討した結果見送りになったのか等全く分かりませんでした。
- 駅での広告、町内会回覧板

- 私のような高齢者が日常的に使っている情報収集の媒体は、一般的な情報源である新聞・テレビ・週刊誌・SNSなのでFacebookやTwitterを日常使いこなしている高齢者は極めて少ない。従って区の広報との接点がなく、気を付けて杉並区の広報紙を見る以外にない。ところが、広報紙に記載されてあったとしても単に一記事として扱われたなら見落とすこともあるだろう。区としては広報に載せたのだから区民は当然見るはずで、見ない方が悪いと思っではないか。目玉的な区政なら何ゆえにもっと目を引くような掲載の仕方を考えないのか、その努力・研究が足りないと思わざるを得ない。見る努力を一方向的に区民に押し付けるのは間違いであると思う。
- 現在の周知方法以外、それに勝る方法はないと考える。
- パソコンを使用している時間が長く、ヤフーニュースとTwitterで情報収集をすることが多いです。重要な情報は、ほぼヤフーニュースで得ております。その他にはテレビや新聞、雑誌、書籍を利用しております。
- 区の地域区民センターに置いてあるチラシやパンフレットなど。
- 老人の集まる場所(例:ゆうゆう館、早朝公園でのラジオ体操等)での雑談、情報交換等。
- フェイスブックとネットです。
- 基本、ふるさと納税サイトから返礼品を検索して、納税先を探しています。返礼品を決めた後、支援内容を見る人が多いです。
- 図書館でワークショップ等で幅広い人を集め討論してもらおう。
- いまの取組みをPRするよりも取組方法を若干変えたらいかがか。ふるさと納税の趣旨＝建前はなるほどと思うものである。したがって、杉並区の考え・方針は十分に理解できる。一方、寄附の受け入れ側はどうすればより多くを集められるかの策に走るのももっともなことである。また、寄附をする者にとっても、多くのメリットを享受できれば嬉しいわけで、win winの関係にあるのではないかと思う。返礼品規制でお得感は薄まるだろうが、いまの真っ正直な杉並区のやりようではさほど現状は変わらないと思う。
- 広報すぎなみ以外では、たまたま友人等との会話の話題となった場合だけです。
- 広報の1面で特集として取り上げるのはいかがでしょうか。
- 杉並区がふるさと納税を実施していることを大半の人が知らないと思う。お礼の内容を明確にして、地域の人に有意義なことであれば、ただ単に、返礼品が欲しいということだけでなく、賛同する人がいると思います。要は、自身の納税金の一部が有意義に利用されていれば、杉並区以外にあえて、寄附をすることもないと思う。もっと知恵を絞り、皆さんが納得する返礼品(必ずしも物品でなくて結構)を考えれば、住民税徴収の減額にはならないと思う。
- やはり広報すぎなみに大きく取り上げるのがいいと思います。他には区民センターやゆうゆう館、すぎ丸の車内等に掲示したらどうかと思います。また町内の掲示板も私はよく見ます。
- yahoo検索
- ・ 新聞 TV放送ニュース インターネットSNS(ブログ・ツイッター・フェイスブック・インスタグラム等、区の各種広報資料等
・ ふるさと納税制度の可否、制度等に対する杉並区の対応について広報特集版、パンフを作成配布すること。
- 広報すぎなみと区公式ホームページを活用している。他の媒体に手を広げるのではなく、広報すぎなみと区公式ホームページの充実、強化に努めるべき。
- まずは、何を訴求するのか、が課題。それによって、媒体など変わるであろう。専門家(と言っても最近是不勉強家が多い)に制度の違憲性等の課題を研究してもらい、上訴すべき。その次に、区民にその情報を発信し理解を求める。本気でやるなら、区報やHP以外に、チラシ。そして、マスメディアに記事提供。
- インスタグラム

- ホームページは関心のある事項しか見ない。街角にある掲示板は至る所にあり内容も微妙に違うので、立ち止まってなんとなく見ることが多い。図書館に行くことが多いので、館内外の張り紙はしっかり見ている。
- 希望者へのメール配信
- よく見る媒体は、やはりSNSですが、杉並区HP、Twitter、FB をどれだけの人が見ているか、ちょっと疑問です。
七夕まつりにチラシを配るとか、区役所に有名人を呼んでイベントを組んで大々的にアピールするのもいいかもしれません。
ただ、杉並区のふるさと納税にあまり魅力がないので、いくら発信してもあまり人は飛びつかないと思います。
- 私もそうでしたが、若い人は広報すぎなみや区公式ホームページを見ません。興味が無ければFacebook、Twitterも見ることがないと思います。
私自身結婚してから興味を持つようになりましたが、当初どこに杉並区の情報があるのかわかりませんでした。その中でも地域のイベントなどの情報を駅の張り紙や道にある掲示板から情報を集めていました。その後、「杉並区って意外とイベントとか面白いものあるんだな」と自ら区公式ホームページをこまめにチェックするようになりました。
意外と紙媒体も大切だと思います。
- 区の情報については、広報すぎなみ、区公式ホームページ、知人とのネットワーク。
普段の情報収集は、新聞、雑誌、インターネット、SNSなど。
- ・区の情報収集としては、広報すぎなみ、町会回覧板、地区案内チラシ程度です。PC、スマホの区公式ホームページを開いて見ることは殆どありません。
・高齢者にとって区の情報を知る機会が少ないように思います。
・PRが不足していると感じます。
・区役所だけでなく、掲示板、図書館、集会場、ゆうゆう館、区民センター等への個々のチラシの配布展示と区政報告会などの講演会等の活用も一案ではないですか。
- 広報での欄が小さい。1面つかって、なみすけのイラストもいれて、もっと人目を惹く、インパクトの強い記事にしてはどうか。
応募者を増やしたいなら、応募してくれなかった人の気持ちを考える。福祉関係とか文化関係とかはありふれている。思いつきで恐縮ですが、銘菓のサブレみたいのに、いい材料(国産こむぎ、バター、砂糖)を使用したなみすけクッキーとか、有名な菓子店とコラボしてはいかが？
(個人的にそのクッキーが好きで小袋入りを時々買うので、すみません。)
あと、著名な美術家とコラボして杉並特製グッズとか。
- 新聞の地方版閲覧
- 区に関することは「広報すぎなみ」を毎回丹念に見ている。また、週に1回は体育館にて区内の諸々のパンフレット等を必ず見ている。自分からは情報を取りにはいかないが、定期的にメールが送られてくるものは必ず見るので、区に登録すればメール送信してもらえるのが良いと思う。
- 紙媒体の新聞、広報すぎなみ。逆にネットは一切使わない。
- 公的施設に掲示したり、資料を置いたりする。
- 「区のふるさと納税制度」とは現在杉並区以外に住んでいる者が何らかの縁で杉並区に納税する制度だと思う。そうした人たちが「区のふるさと納税制度」のことを知りたいと思った時、多くの場合、区のホームページにアクセスするのだと思います。ふるさと納税制度の趣旨を考えると、問13にあるように「杉並区民が杉並区にふるさと納税できる」とはなかなか理解が難しいことで、広報紙で詳しい説明が必要な気がします。
- ふるさと納税のサイトにアクセスする人が多いと思います。それらのサイトに杉並区への納税の取り組みについてアピールするような説明文や絵を載せてはどうでしょうか？
- 新聞やネットニュース

- 情報収集源は広報すぎなみ及びインターネットです。以前に杉並区のモニターに応募して説明会があった折に、区民税の財源が自分とは無縁な「ふるさと」に流出しているとの話を聞いて認識を新たにしました。
災害の被災地支援など、明確な目的下で施行されるべき制度であることのPR活動を、今後とも広報や講演会などで広めてゆく必要があると思います。
- YouTube・tumblr
- 杉並区にも隠れた特産品・名産品がある筈なので、これらの発掘、更には区の補助金を出すなど奨励・推進し、広報誌&ホームページに『ふるさと納税』に相応しい商品・イベントを頻繁に宣伝して積極的に連載を掲載すること。特に殆どの区民高齢者はFacebookやTwitterは無縁の為、身近な広報誌と個別パンフレットを主体にした地道な広報活動の継続が必要です。
- 区ホームページやFacebook、Twitterなどでは、積極的に情報を得ようとするひとの目にしか留まらない。駅構内の掲示板など、古典的手法であるが、そのほうが効果があると思われる。
- HP・ツイッター
- テレビのニュース番組
- 杉並区の税収入がこれだけ減っていると情報を発信しても、その取り組み自体に賛成でなければ、また魅力ある返礼品が全国にある限りは、変化は生まれません。媒体や方法よりも、この取り組みについて区民は納得しているのだろうかという疑問に思う。区のアンケートで、杉並区の取り組みについて、区民は賛成か反対かの投票を行ってほしい。区民の声を元に取り組みを決めてから、それをどう発信していくかを考えてほしい。
- 図書館・区民センター・駅構内等で区の媒体(チラシ等)をチェックしています。
- インターネットやFacebookなどのSNS。区役所を訪れた時や図書館に行った時に入手した広報すぎなみ。
- <facebookやtwitter以外に普段使っているもの>
 - ・二次情報: 情報発信元のWebサイト・文献
 - ・三次情報: 信頼のおける複数の報道機関の記事を比較(Web含む)、それらの報道機関のtwitterがあると良いのではないか。
 - ・報道価値のある情報であれば、信頼のおける中立的な報道機関・媒体による取材・報道(当区のみならず他の自治体の住民に中立的な立場で周知される、区のfacebookやtwitterをフォローしていなくとも入手できる)
 - ・地域の駅、商店(コンビニエンスストア・クリーニング店等のチェーン、ATM等も含む)等での掲示(区のfacebookやtwitterをフォローしていなくとも、生活の場で目にできる)
- LINEや、区報、facebook、学校のお便り
- google・Yahoo・Twitter・Instagram
- 広報や、ホームページは、みんなが見られるいい方法だと思いますが、見る方は意外と見たい所しか見ません。なので、出かけた時に目に入るお店や、病院の待合室や、駅のトイレなどに貼ってあると目にとまって、読むと思います。チラシを配布したり、広報に挟んで積極的にお店などに貼っていただくのはどうでしょうか。
- 新聞を購読しているので、広報すぎなみが情報源です。
- 知人・友人からの口コミ。特に、自分から見て知識と判断力に優れている人の行動。
- 主にインターネット検索で情報収集を行っている。
- 7月1日の広報すぎなみを見直して、日本フィルハーモニー交響楽団が被災地支援活動の応援をしていることを知りました。読んだはずなのに、見落としていました。
区民の関心を引くために、例えば、毎月1日号の決まったページで、最終ページの世帯と人口のスペースの近くに、集まった金額やその使い道を掲載してはいかがでしょうか。
- 電車の広告(画面)
- ホームページ閲覧など

- 人が多く集まる場所で、積極的にPRする。
- SNS、検索エンジン(Yahoo、Googleなど)などネット・図書館・新聞・TV
- ふるさと納税と言う文言は、返礼品の良し悪しで費用捻出出来る部署の勝ち負けが決まる様な違う興味の的となってしまうと感じます。地元納税、地域納税のような言い方を付け加えるのはどうですか？
- ゆうゆう館や、ふれあいの家等、納税者がいるところでの簡単な説明会もいいとは思いますが、年配の方は入り口から拒否される方もいると思うので、難しいかもしれませんね。地道に区のホームページや広報誌で周知するのがいいかもしれません。
- ホームページやSNSは元々区政に興味を持たない人が自ら参照することは稀だと思います。人々が唯一能動的に区政に関する情報を集めようとする選挙の機会を有効活用すると良いのではないのでしょうか。特設大型ポスターの余白や選挙会場の広報物、選挙時期のみのTwitterアカウント等で、ふるさと納税に限らず区政の活動や論点、それに対する候補者の意見などを示す場があると良いと感じております。
- いつも広報すぎなみを楽しみに拝読しています。他に目に付く媒体は、新聞の折込広告、区の掲示板、でんごんくん、町会の掲示板、区民センター協議会の広報誌などですが、興味がないものは見ていても記憶に残らないものです。区の税収が減ることでしわ寄せが出ている現状を訴える、目にとまるようなチラシを作成してはどうでしょうか。
- 主にインターネット。
東京都が脱退したと新聞で見たが、都民として非常に不公平感がある。
- インスタ、Facebook、メール
- Yahooなどのポータルサイトに「杉並区」のバナー広告を出し、誘導するようにする。
- facebook
- 広報すぎなみ・区公式ホームページ
- 若い方は写真関係なくても何でもインスタグラムで検索するそうですが、私はツイッターのヘビーユーザーです。信頼できると判断できた情報源のみを慎重に慎重を重ねてフォローしています。適切な情報が必要な時に流れてきますし、フェイクがあれば必ず誰かのツッコミが入っていますので大変便利です。一般的には、もうちょっとカジュアルにフォローをするものだと思います。少し前に広報課のアカウントができて、よくがんばっているなど認識しています。一方で、以前からずっと放射能測定結果のみを発信し続けるツイッターアカウントのイメージが悪すぎて、フォローする気になれません。他にも水害とか地震とか全ての方が関係ある情報が色々あるのに、もはや殆どの方が気にしていない情報のみを流し続けて不気味です。また、他の方から杉並区のアカウントのリツイートが流れてきたことがほとんどありません。ツイッター活用の上から目線アドバイスとなりますが、
・「広報されたい！」と思う人は少ないので、「広報課」というアカウント名は損です。仕方ないかもしれませんが、「区の公式」は強みです。許されるのであれば「杉並区お役立ち情報」のようなアカウント名にして、プロフィールで杉並区広報課の公式ですと名乗るのはいかがでしょうか。
・普段からフォローしておいて損のないアカウントにしておかないとツイッターで情報は広がりにくいです。区のホームページの更新内容「お知らせ」を要約発信＆リンクを地道に発信してくれれば、じわじわと杉並区民でフォローする方は増えるしホームページへの来訪数も増えるだろうな、と広報課のアカウントができる前から常々思っていました。
・区が発信すべき内容は広範囲すぎるので、メールシステムのようにジャンル分けしてアカウントがあると良いです。例えば災害情報や防犯情報のメールシステムがありますが、同じようにアカウント分けをして、そのまま冒頭のみ＋続きはwebで！形式で発信していけばいいのと思います。さてふるさと納税制度について区公式から発信したいことが今後も沢山あるのであれば、納税関係とか、お金関係とか、何かしらのジャンルのアカウントを作って発信していけば、興味ある人には届くようになる可能性があります。できないでしょうしやって欲しくないですが、現実問題で一番フォローを集めやすいのは「節税情報」と名乗ることでしょうね。
一方で、継続的に発信することがないのでしたら、ツイッターでの”周知”は難しいものとして、広報課ツイッターからのたまの発信に留めるのが労力vs効果の観点からはベターだと思います。ツイッターは、興味のない人に何か特定の情報を知らせるのには比較的難しいツールです。
- JRの中吊り広告に出稿するとか、お金をかけた広報も有効だと思います。
- ふるさと納税先を紹介している雑誌やWebサイトなどの媒体を積極活用すべき。

- 区内のJR・私鉄の駅に掲示物を貼って実体を多くの人に知らしめる。(但し、掲示に費用が掛かるのであれば行わない)
- 広報、区のホームページなど
- Google等の検索サイト
- 広報すぎなみは見ており、いろいろの催物には参加していますが、ふるさと納税制度についてはあまり情報収集ができていません。
- 主として広報すぎなみを使用。
- 区役所での示説
- ・杉並区内のJR、私鉄の駅にポスターの掲示
・関東バス等の吊り広告やシールなど
・広報すぎなみでの特集号
・杉並区の封筒の裏面に広告を打つ
・公会堂での日フィルコンサート時にパンフレットを配布する。
- やはり郵送のパンフレットを一番丁寧にみていると思います。
- ふるさと納税サイトへの出稿や駅(中央線、京王線など)の社員が目にする所でのPR。また杉並区内のスーパーなどでのチラシ・ポスター配布。
- ネットニュース
- 本件に関して、広報すぎなみより前に、町会回覧板で事実を知りました。アナログと思われるかも知れないが、回覧板や、町会の掲示板などにキャッチコピーのようなものを表示して、区民に周知するのが一番に多くの方に区の方針を知ってもらえるツールかと思います。また、区議会にも協力してもらい、区民とのふれ合いの際には区のお取り組みを話題にしようというのがよいと思います。
- twitter
- インターネット・テレビ
- 区広報紙、区のお知らせ等で情報入手中です。
- インターネット・駅などのポスターも意外と目にはいつて見るかも。私の住んでいる地域では回覧板も読みます。
- 広報すぎなみを毎号読んでいます。必要な情報は区のHPで調べています。
- ポイントサイトやクレジットカードのマイページからの情報で知り、ふるさと納税をしています。特に家内の郷里に何かしたいと思い始めました。(義理の両親が健在なため、郷里への恩返しのつもりです)
- ネットを利用するが、目的をもって検索しない限り見ない。それよりは、普段区民が利用するスーパーや駅などの掲示板で通知する方がよい。
- ・広報すぎなみ ・JCOMの11チャンネル ・町会の役員会
- Facebookやtwitterは日常的によく使っていますが、情報(杉並区のふるさと納税制度)を見かけた覚えがありません。ピンポイントで周知させるのであればチラシなどの方が目が行くのかも思いました。(古い方法ですが)
- 区の情報を知る一番の手段は「広報すぎなみ」です。見易く、読み易い紙面で区民の皆さんに発信してください。
- 電車の広告(共同にてお知らせしていても良いかもしれませんが)はよく目にしますし、社員は広報・区公式ホームページはわざわざ目にしづらいかと思います。

- 区のホームページ
- NPO事業者との交流、地域自治会・管理組合・ラジオ体操・ランニングクラブの交流
- Yahoo・ホームページ・時々広報すぎなみ
- ホームページ・ツイッター・メールマガジン・日経新聞
- ヤフーニュース、Facebook、Twitterなど。駅、町内や商店街に掲示板を設置してはどうでしょう。
- まず広報に皆様の目にとまりやすく、わかりやすく掲載すべきである。
- 「広報すぎなみ」や朝日新聞の記事から情報を得る事が多い。
- 動画配信サイト(YouTube等)とSNS(Facebook, Twitter)を連携して発信していくと良いかと考えます。
- 新聞等のチラシを活用すれば、より多くの方が目にすると思います。
- 区の公式ホームページはよく拝見しますが、どのような取り組みをしているのかがどこに書いてあるのか分からなかったです。文面だけでなく写真なども添えてあると見やすく良いかもしれません。
- SNS等の発信のみではあまり浸透しないと思います。
- 税の一極集中をなくす意味でいい制度と思いますが、そのやり方にもう一考あってほしいと思います。もっと福祉重視にして頂きたいと思います。
- 広報
- Webの広告
- LINE・Instagram
- 情報収集は多様性であり、人それぞれだと思います。全てに対応したとしてもけっして「知ってもらえる」わけではない。いかに杉並区に興味をもってもらうかだと思います。
- インターネット、電車内、駅での広告
- 情報収集について、グーグルの検索窓にキーワードになると思われる語を2~3ヶ入力して、記事をさがしています。記事中に興味をひく内容が見つかればそれを再度キーワードにして検索してます。2~3時間はあっという間に過ぎてしまいます。
- ライン・HP(ネット)
- 私自身FacebookもTwitterもやっていません。杉並区はお年寄りが多い印象があります。ですので基本を大事に街の掲示板、若い世代にはTwitterと世代毎に広く告知される方法が望ましいと思います。広報すぎなみを熟読する人は少ないと思うので、掲示板があれば何気に見てしまうものです。
- これについて知りたいと具体的な内容がある時は、ホームページを見て情報を収集するが、知りたい内容が漠然としているときは本をパラパラみて情報を収集する。
- 広報すぎなみから情報を収集することが多いです。
- Instagram・You Tube・LINE・駅看板、ポスター
- ふるさと納税サイト(ここに出てくるところしか納税しない)

- 広報すぎなみ、区公式ホームページは情報を早く正確に得る方法として有効だと思う。より多くの方々に広く知って頂くためには他に伝えたい事を分かりやすくインパクトを持たせたチラシやパンフレットを多くの方が集まる場(イベント、フェス、コンサートなど)で配布するのも情報収集に受け身な方々には目にふれるきっかけとなると思う。町内会の回覧板に入れて頂くのも高齢者の方々には有効に思える。
- ふるさと納税との言葉は今迄、御礼の品を受領(品を選ぶ)を(支援より)出している様にしか見えないう様に思われました。(充分把握していなかった)全国的にふるさとへの寄附よりもその自治体(各県)の物産からの情報から目に入ったように思います。3.11の様に現在復興段階でふるさと納税のチラシが入った場合、気持ちの上で充分その事を理解しておりますので、そちらに納税しようと思いません。年令的に見た目だけで考えてしまいます分は反省して居りますが「ふるさと納税」制度を区民の方に理解出来る様説明したらと思います。
- 地域創生の取り組みに関しては、ヤフーニュースに「地域創生」「地方創生」などの検索ワードを入れて定期的にチェックしています。(地方創生に関わる番組の制作をしているので)
- 普段、SNSやインターネットを使うことが少ない為、情報収集は比較的アナログです。公共の乗り物や場所などに提示されているとよく目に止まります。
- 情報収集は専らgoogleを使用しています。実現は難しいかもしれませんが、バナー広告のような手段が利用できると認知度は向上すると思います。
- 制度や寄附の流れがわかりやすいチラシがあればよい。
- ネットでのNews・駅にポスターを貼るのはいかがでしょうか。
- 区のふるさと納税制度に対して、お礼の品が無い杉並区は多くの区民やそれ以外の方々が興味を持ってないと思います。大勢の人々で色々な所で杉並区の「オモイ」をチラシを使用し配っても受け取る人がいるとは思いません。要は内容を作り変える事が先だと思えます。
- 制度設計を工夫し、関係者全員がバランスよく利益を受けられるように変更すべき。
- テレビは見ません。主に区のことには広報誌。あとはメールやツイッターです。申し訳ありませんが、区が発信していることを全く存じ上げませんでした。私は主にTwitterで情報を得ていますが、広報もよく見ます。Twitterや広報でも毎月ふるさと納税について書くぐらいでもいいように思います。
- 杉並産の野菜などを返礼品にしたらいと思う。
- 広報を1年半にわたって、月に2回見るようにしてきましたが、「ふるさと納税」に関するページや記事を見た記憶はありません。表紙などに大きくのせるなど記憶に残るようなアレンジやのせ方をした方がいいと思いました。
- 屋外ネオンサインやJR、東京メトロ丸の内線、西武線の交通広告に意見掲出を行い発信力を高めて区民の目に触れる機会を増やす。
- 口コミでひろめる。
- TV、ラジオ、Yahoo News、Smart News、Line News
- 区報が杉並区内の情報を知る上で最も活用している。一般的にはSNSの関心のもてるサイトやグループを読むことが多い。特に制度について詳細を知りたいときはグーグル等の検索を使用している。
- 回覧板や自治会の掲示板。掲示板は若い人にも見てもらえるように明るくポップのようになると見たくなる。
- 現在の情報収集手段はFacebook・Twitter。イベント情報等は充実している印象があるが、行政の取組み等に関する内容はあまり多くないと感じる。

- Facebook・Lineニュース・Googleニュース
- Web上の取材記事など。
- 区公式ホームページで発信する内容が1番信用できると思う。
- 新聞・折込みチラシ・パソコン(グーグル検索、Yahooニュース)・スマートフォン(NHKニュース、防災アプリ)・テレビ・自治会の回覧板
- Yahoo・Instagram・LINE
- 広報や公式HPを見ることは少ないと思うので駅の広告や町の看板などにはった方がわかりやすいと思います。SNSだけでなく街中の目にはいるところに発注すべきです。
- メールマガジン
- 納税者も幸せな気持ちになれる取組みがあればよいと思う。
- 地域の掲示板・回覧板
- ・「広報すぎなみ」で拝見しています。杉並区HPは必要時に見て調べるだけで通常は利用していません。
・多くの人に知ってもらうためにはテーマを絞ってパンフレット(図表等を入れ、字は大きく読みやすいもの)を作り、駅、スーパーなどに置けばよいと思います。
最近、新聞を購読しない家庭が増えているので「広報すぎなみ」を駅で入手となります。関心のある人しか手に取らないのではないかと思います。
- ・SNSを利用する機会が少ない人が活動を目にできるように広報で定期的に案内・紹介を掲載する。
・学校の授業などで活動を学んで家庭へのフィードバックをしてもらい、より理解者を増やす。
- Facebook・InstagramなどのSNS・ポスター・回覧板
- 個人的には紙媒体(広報すぎなみ)がその周知に一定効果があると考えます。(費用対効果は不明ですが)
- LINEをよく使用するので、杉並区のものがあれば見ると思う。なみー&なみすけのスタンプがあればほしい。
- LINE NEWS・Yahoo news・ラジオ(東京FM・Jwave)
- yahooニュース・facebook・twitter・instagram
- 地域の情報源は主婦たちは小学校や幼稚園、児童館でのものが大きいです。特に児童館や子育てプラザのポスターやチラシは目を通すことが多く、そこから口コミで広がります。
- 主にInstagram・twitterなどのSNSが若い人にとっての情報源になっていると感じる。地域に限定した、インターネット広告も出すことができるので効果的だと思う。また、お年寄りの方には広報誌を活用すべきだと思う。
- Instagramで写真と共にアップすると効果があるかもしれないです。
- Instagram・杉並区ホームページ・高円寺経済新聞・NEWSPICKS

問19. 最後に「ふるさと納税」や「寄附」に関するご意見がありましたら、自由にお書きください。

- 区長のふるさと納税に対する態度はかなり厳しいです。財政のことはよくわかりますが、もう少し魅力的なものを用意した方が良いかと思っています。
- 最近、クラウドファンディングでの集金活動が注目されています。これは、目的が明確だからだと思われます。同じように、目的を明示して分かり易いものにしていけば、良いのではと思います。
- 寄附の習慣を広めるきっかけになる良い制度だと思う。
- ふるさと納税により都市部の税金が予想より少なくなり、都市部の予算減にともなう影響が大きくなり、問題と考えている。
- 個人的には、大阪の泉佐野市のような考え方には反対で、この制度を正しく理解、活用しているところを応援します。杉並区の税収が少しでも増えるよう、魅力ある返礼品の提供に期待します。
- 杉並区民でも杉並区にふるさと納税ができるとは知らなかった。地元が杉並区のため、他地域にも寄附をしていなかったが、杉並区へであれば検討したい。ただ、返礼品に魅力がない。返礼品競争に参加する必要はないが、障害者施設に限らず地域に根差した商店の品物を返礼品にするなどの工夫が必要だと思う。
- 自治体間の税収格差が大きく、住民への還元も大差がある。居住地により地域格差を甘んじて受けなくてはならないのは納得できない。その点では寄附も納税の選択肢として意味があると思う。
- 明らかに東京23区と地方自治体の税収規模、税収能力は違う。23区＞地方。地方自治体のサポート、活性化にふるさと納税は一助になる。杉並区は税金流出による区民のふるさと納税抑制・批判をおおるのではなく、杉並区へのふるさと納税推進、自助努力による区財政の健全化に、重点を置いて、自助努力をはかってほしい。
- 返礼品を渡すことが目的ではなく、地方自治体への寄附であることをもっと説明すべきだと思います。ふるさと納税へ異論を唱えていることについては、世田谷区の保坂区長の発言は知っていましたが、杉並区もそうだというのは全く知りませんでした。杉並区は、トップによる情報発信が非常に弱いと思います。
- そもそも、東京一極集中による税収の不均衡があり、地方都市はそれぞれ人口減で苦しいのも事実。返礼品競争は過剰な印象だが、こうした寄附制度が存続するのは致し方ないと思う。
- 返礼品にしか注目が集まらない現象が嘆かわしい。本来の目的について、もっと関心を持って欲しいと思う。
- 高額納税者にメリットのある制度と思う。
少額ではあるが、メリットのとれる範囲で実施しているが、不公平の拡大に繋がるなら、制度の見直しも必要と思う。
- 我がふるさとや、災害を受けた自治体を支援したい気持ちはよく分かるが、ふるさと納税に何故に景品が必要なのか、他より高価な景品を付けて善意の納税者を自分の方に引き付けようという魂胆が見え、またそれをふるさと納税の選択肢と考えている浅ましい納税者がいる。
双方とも寄附という善意の行為の真意を全く理解していないと云わざるを得ない。金集めには手段を選ばないのか。金を集めた方が勝ちか。
- 財政基盤の脆弱な自治体に寄附をする制度は好ましいと思う。裕福な都市部の自治体と過疎地域の自治体では、土俵が全く違う。

- 以前区長がテレビで、杉並区はふるさと納税の返礼品にできるものがない。税収が減るばかりで不公平だ。と、怒りを全面に出してご発言なさっております。その様子を拝見して、恥ずかしさと悲しさでいっぱいになりました。返礼品にしようと思えばできるものが沢山ありますし、そのことを一番よくご存知(ご存知であるべき)なのは区長だと思います。にも関わらず、全国の大勢の方がご覧になっている番組で「ない」と言い切り、ふるさと納税制度や多額の寄附を集めている自治体に対してキレて感情的にお話しになるお姿に、杉並区のイメージが悪くなってしまう…と、心配になった次第です。そのことがヤフーニュースにアップされると、案の定批判的なコメントに溢れ、悲しかったです。税収減への危機感や焦りがそういった言動につながったことは重々承知しておりますが、区長は区民の代表であることをお忘れにならず、反感を買うような感情的・一方的なご発言は避けて頂き、どうすれば皆が笑顔になれるのか、客観的な立場から冷静にご意見を述べて頂けることが理想的だと感じました。決して批判をしたいわけではございません。杉並区が大好きなため、これまで長年かけて築き上げられてきた「住みやすい街」という良いイメージを、一時的な感情で破壊してしまうのは勿体ない…という思いで書かせて頂きました。
- 本来杉並区に納入される筈の税金が、杉並区以外の地域に「ふるさと納税」として流出してしまう分を出来るだけ少なくするために、他地区へ「ふるさと納税」している人に対して、何らかのペナルティーを導入したら良い。例えば住民税を割り増しするなど。
- 高額返礼品および多額収集自治体に話題が集中し、注目すべき寄附金の活用例等の情報が伝わらない。多くの責任はマスコミの対応(話題の取り上げ方)に問題があると考える。自治体を含め、担当省庁が積極的に情報を掘り起こし、広報する努力が必要である。
- 杉並区のふるさと納税に対する活動自体、広報誌以外ではあまり見ることはありません。区長がふるさと納税反対の立場を示しているのはよく目にしていたのでふるさと納税をお願いする立場にあるとは思いませんでした。被災地支援に使用するというのを大きく掲げ被災地の特産物などを返礼品にするとか、もう少し知名度を上げるようにしないと杉並区へのふるさと納税は増えないのではないのでしょうか。
杉並区の住民税の使い道が有意義なものであり、区民が賛同できていけば、ふるさと納税も減る気がします。最近の杉並区は箱モノばかりに力を入れているように見え、あまり賛同できないので、今年初めてふるさと納税してみました。
日本人は「寄附」に対して不慣れだと思います。純粋に寄附をするのは苦手だけど、何かお礼をもらえると寄附しやすくなる、そんなところがある気がします。
- 国などで全国の寄附活用や現状の集計の提示、透明性が必要かと思えます。
- ふるさと納税の仕組みがあるがぎり、区民に異論を唱えることには無理があります。ネガティブキャンペーンも逆効果になると思えます。
- 若干、名前がよくないイメージがついている気もしますので、杉並応援納税、などとしてみてはいかがでしょうか。
- 杉並区のふるさと納税の内容をもっと充実させることと、もっと行政がPRする必要があると思えます。
- 自分がお世話になっている場所にこそ納税すべきだと思います。返礼品等をあてにするのはおかしいです。また過度な返礼品を出している自治体もおかしいと思えます。ふるさと納税の本来の主旨は何なのでしょう？被災地支援はしてもいいと思えます。
- ・地方公共団体の主要財源は地域住民の税負担が原則である。
・ふるさとに対する心情的な謝意や支援は、あくまで善意によるものであり、見返りを前提に寄附を集めるようなことは地方自治の原則を外れるものである。
・制度を存続するとすれば、感謝状 限度額以内の記念品等を考えること。
・行政制度として射幸心を起こさせるようなことは避けるべきである。
- 地方自治の根幹を揺るがす、前代未聞の悪政なので、この制度の廃止に向けて、国に強力に働きかけて欲しい。税金の控除は即刻やめるべきである。
- 歴史に残る悪法。区が全国民の為に、先頭を切って抜本改革して欲しい。
因みに、「寄附」の根底は、「心」、人間らしい共助の心にある。餌で射幸心を煽った罪は重い。神聖な「税」をお遊びで弄んだ罪は重い。国を滅ぼす、と言っても過言ではない。
- 受益と給付の原則から住んでいる自治体に納税すべきと考える。寄附は税金とは別体系にし、高額の場合は表彰等に対応し、少額の場合はクラウドファンディングのように目的別に選べるようにしてはどうか。

- 制度そのものに不備があり問題を生じやすいので廃止してもらいたい。
- ふるさと納税で収入を増やすならば、どうしても魅力的な返礼品が必要です。肉魚介野菜果物米などをお得に購入する感覚でゆかりのない地にふるさと納税している人ばかりです。そこは背に腹は代えられないので、杉並区も異議ばかり唱えていないで、魅力的な返礼品を考えるべきです。食品ではさすがに太刀打ちできないので、是非アニメ文化を活用すべきです。杉並区ゆかりのアニメ文化があるならばこれを活用しないのは勿体ない。アニメファンは本当にアニメが好きです。杉並区の返礼品でしか手に入らないアニメ限定品を用意したらいいのに、と思います。
- 私の主人も何度かふるさと納税して、お肉貰おうよ～みたいなこと言ってましたが、我が家には子供がいて、月数万円で保育園に通え、病院代もタダで、たくさん杉並区から恩恵を受けているのに他の地域に納税するなんておかしいと思っています。
杉並区役所のみなさんはもちろん広報の方々、もっとたくさんの情報の発信を頑張ってください。
- ふるさと納税自体、過剰返礼と応分負担の原則に反しているので制度を変える必要があると思います。
成り立たない自治体は政府が保証し、財源は国債発行で賄うようにする。景気が良ければ自治体自体が成り立つのではないのでしょうか。
政府が自治体に責任だけ押し付けている印象が拭えません。
- ・本来のふるさと納税の趣旨は、良い制度であるように思います。
・その趣旨は、その地域を思う人が思う時にやる、出来る人ができる範囲でやる制度ですね。でも、思っても、経済的にも、時間的にもやれない人々がより多くいることを忘れてはいけません。
・納税額の如何に関わらずすべて志納、返礼品も同じで良いのではないですか。
・返礼品競争は、「ふるさと納税」とは切り離して考え、その町の商売として別に企画すべきだと思います。
- 寄附にたよらず、堅実で儉約な予算立案をお願いします。
- 区も積極的な運用参加を目指してほしい。
- 杉並区には美味しいものや農林漁業製品がないのだから、お返しなどしなくてよい。「荻外荘」や日本フィルへの寄附などは、無理して考えた内容であると思う。これらはふるさと納税とは無関係に取り組むべきであると思う。
区のふるさと納税の仕組みがよくわからない。寄附したら美味しいものを貰えるのはよくわかる。何故、「荻外荘」や日本フィルになるのかを説明してほしい。
- 本来納税は住んでいる地域の住民がその地域の区市町村に納税すべきもの。しかし、人口が都市部に過度に集中し、故郷の地方が過疎化、高齢化で困っている実情に照らして地域の振興をはかるために住居地の如何にかかわらず、ふるさとに納税できる仕組みが作られたのだと思う。
その結果、都市部の納税が減少して問題になっている状況が起こっている。
- 本末転倒な制度はいずれ無くなるだろうと思いますし、無くすべきだと思いますが、地方出身の自民党議員の抵抗に遭うでしょう。東京都や杉並区の出身議員がもっと大きな声を上げて地方議員や総務省を説得すべきではないでしょうか？
- 友人知人の中には、ふるさと納税の返礼品目当てで複数のふるさとに納税し、誇らしげに成果を宣伝する人もいます。地方によっては、お客さん争奪戦のような趣きもあって不愉快な制度です。是非とも本来の意図を回復してほしいと願っています。地方の物産が広く流通するというメリットはあるのですが、税制に組み込むことには反対です。
- ふるさと納税は『納税』の視点から離れて、杉並区のみならず全国の『消費者&ユーザー』の圧倒的多数は何に惹かれて寄付をするかを分析評価し、区政・区役所の運営にも共通する『ユーザー(納税者)の立場・視点』に立った施策・企画の実施が、杉並区民(顧客)の『満足度アップ』に繋がり、税収減を抑えた上でふるさと納税者を増やすことになりましょう。この結果が区の税収アップ成功への近道だと確信しますので、『善は急げ』で実践して頂き度く思います。
- 杉並公会堂や座高円寺といった文化的事業についての寄附、そして、それらのチケットが返礼品となっているなら、杉並区に納税しても良いと思う。
- 見返りが何かによってどこに寄附するかを考えるのは人間なので仕方がないと思う。
ふるさと納税自体、税金の控除が受けられ、節税対策になる制度＝自分にとって得、さらに寄附したら何かもらえる＝自分にとって得、その何かがお得感にあふれている＝自分にとって得、という寄附＝誰かのために役立っているという意識から外れているので、ふるさと納税自体があまりいいものではないとは感じている。

- 興味を持ってもらう入り口としての返礼品はよいと思います。泉佐野市の取り組みはメディアやネット上でも取り上げられて話題作りに成功しており、参考にもなるのではないのでしょうか。
- 杉並区の決断は、本来のふるさと納税の本質にこだわっていて、返礼品をしないという寄附の本来のあり方であるのは正論だと思う。しかし、これだけ税収が流れていて、本質にこだわったり、ちらしで取り組みを理解してもらえないようにしても、問題解決にならない。痛い感じとしか捉えられない。杉並区の企業とコラボするとか、杉並区の魅力をアピールできるものと結びつくものがなければ、税収入の減少に歯止めはかからないと思う。
- 減収といっても以前と変わらない自治体としてのサービスレベルを維持できているように感じるのですが、どこまで区がマイナスの影響を受けているのかが分かりかねます。
- ふるさと納税は基本的に返礼品目的や節税に利用するものでよいはずがないが、区の税収が減額されていることやそれによってどんなサービスを削ることになっているか広く伝えるべき。
私は区民として今日までふるさと納税とは変なものだと思っていたけどそれ以上何も考えたことがなかった。
寄附は、返礼として受け手から気持ちだけを受け取るもので 返品を要求するのは倫理的にもよくないと思う。
- もともと地方の生まれであり、その地域における少子高齢化や経済の不活性化等への課題意識が大きいので、現在居住せずして対象地域を応援できる制度には賛成である。また、寄附の用途が明確であれば、返礼品の品目は各自自治体で耳目を集める工夫の余地を残した柔軟なもので良いと考える。
- 区内の小中学校のPTAへの寄附が選べて、寄附したら役員免除とかの特権が付いたら、積極的に杉並区に寄附する。杉並区に寄附した場合の自分へのメリットが現状無いので、杉並区にはふるさと納税しない。高尚な理念に基づく寄附は、遺贈で十分だと感じている。
- 返礼品があるのでふるさと納税を積極的に行う人たちの気持ちはよくわかる。しかしそれによってその地域の税収が減ってしまって、住みにくい街になってしまっは元も子もないと思う。
- 都市と地方との共存共栄や寄附文化の醸成を目指した、杉並区の取り組み姿勢に、賛同致します。これからも、本来の目的を見失わないようにして頂きたいと思います。
- 自分自身や先祖、家族の出身地や、自分が関心を持っている地域で生じている問題に対して、寄附により何がしかの支援が出来る制度は良いと考える。自分の周囲を見ても、東京在住であっても自分自身や親が地方出身で、その地域の方に心情的なつながりを感じている人が居る。その思いを支援する制度として、制度の趣旨は良かったと思う。現在の返礼品競争は制度定着までの一時的な問題だと思っています。
- より身近で愛着の持てる杉並区を目指して頂きたいです。そうすることで「ふるさと納税」や「寄附」が増えると思う。
- 返礼品目当てというのが気に入らないです。寄附は見返りを求めるものではないと思うのです。税金の控除が受けられるのですから、返礼品は不要だと思います。ただし、ふるさと納税で、ふるさとの特産物などが金額に見合った範囲内で返礼され、それがきっかけで、地域の活性につながるのであれば良いと思います。
- 地方の過疎化が進む中で、地方の維持には良いものだと思う。確かに杉並区の財政に影響を与えていることも分かるが、それであれば、子育て等にかけるお金をもっと減らしても良いと思う(他の自治体に比べて恵まれ過ぎている。)
建物の建て替えを同じ時期に行い過ぎということもあるかもしれない(高円寺学園や中央図書館、阿佐ヶ谷の河北病院関係の再開発等)。もう少し、平坦になるように上手く計画を作れば良いと思う。

- 日本では欧米と比較すると寄附文化が根付いていないことは世界の寄附ランキングからでも自明である。背景には「公共」は政府が行うものという考えもあり、国や地方自治体に納税しているためその税金で公共事業を推進するのが当たり前という考えもある。また、これは税金の用途不明と一緒にあるが、寄附金の使用方法が明確でないことが挙げられる。被災地における寄附金の不正利用をニュースで聞くとおさらである。信頼関係で構築されていない中で「寄附」をすることは困難と判断できるのではないか。
しかし、それはイコール「社会貢献をしたくない」ではない。社会の課題(育児、介護、貧困だけでなく)が身近にある場合、困った人を助けるという気持ちは皆存在する。お年寄りに席を譲ったり、ベビーカーの人を優先的にエレベータを利用いただいたり。そしてそこに見返りはない。見返りの無い助け合いDNAが人間にはあると考える。
寄附も本来そうであるべきと考える。短絡的に自分に直接リターンされるのではなく、長期的な視野で、共助によって、幸せな人が増える→幸せな地域が増える→自分も幸せな気持ちになる、という「循環」が本来の寄附の形なのだと考える。
所得税控除や返礼品のために寄附をするのは「きっかけ」としては良いと思うが「目的」になっては本末転倒ではないかと思う。
- 杉並区と言う恵まれた地域では、ふるさと納税による税金の減収をいかに抑えるかをもっとアピールするか、減収(これ以上増えないと感じます)しても賄える計画的な予算作成、運用を強化すべきだと思います。
- ふるさと納税の現状を考えると杉並区にふるさと納税を選択して頂くアイデアを実行することが急務だと思います。
例えば、ふるさと納税→なみすけギフトカード→地域商店→地域へ(杉並区の活性化)→商店(区民)が杉並区への納税
- 人間は欲深いので、ふるさと納税の取り掛かりは、返礼品だと思います。そこからふるさと納税の仕組みや意義を学ぶものかも知れません。杉並区の考え方は正しいとは思いますが、一番初めは、何か御礼をするのも杉並区を理解していただくためにも有効なのではないでしょうか。
- モニターのお礼として区内の金券制度が整うのであれば、杉並区の祭や商店街を活かし、それらで使える金券をふるさと納税として発行することはできないのでしょうか。高円寺や阿佐ヶ谷の商店街は多くの方にとって非常に魅力的だと感じております。
ふるさと納税制度は地方の第一次産業を救う重要な担い手となっていると思うので、ふるさと納税制度に単に反対するよりは、似た状況の地区と協力して新しい可能性を見出した方が合理的な印象を抱いております。
- ふるさと納税をすることで、魅力ある返礼品がほしいという方には、杉並区にある企業とコラボして区のPRにも使える独自の品を作成しても面白いかなと思います。
- 制度そのものが天下の愚策であり大反対であるが、使わないと損をしている感覚があるので使っている。東京都が制度から脱退したと新聞で見たが、それも都民として不公平感を感じる。もっとしっかり住んでいる住民のために住民税は使うべきであり、こんな愚策で住民税が減少してしまうのなら、徹底的に魅力的な返礼品を展開し、地方から税金を吸い上げるべきである。
- ・「返礼品」の考え方自体がおかしいと感ずる。
・日本は「寄附」の文化がないに等しい。時間はかかるが、そうした文化を醸成する必要がある。他方、税金は任意ではないため、負担感を伴う。その上で寄附行為を促しても、実践率は高まらない。納税に対する納得感を高めることが先決との思いが強い。要は政治の問題になるのではないか。
- 制度全体が改善されない限りふるさと納税は活用したくないです。
ふるさと納税は非常に問題のある制度だと常々感じていました。私は節税に興味は少しはありIDECOなども活用していますが、倫理的反感からふるさと納税関係には手をださないようにしています。保育園などを中心に、大変お世話になっている杉並区への納税は減らしたくないです。
(一方で、住民税に【追加で】区にふるさと納税できるという事？なのはよく分かっていませんでした。抜本的に制度まるごと改善されない限り、ふるさと納税に手を出すことはないでしょう)
一方で「流出しています！」と主張することは、いかに正しくても、私のような反対派にも、賛成派にも、興味のない派にも、悪い影響しかないように思います。返礼品や節税目的で実際やっている人は責められているように感じ、それは区への反感になり、そうすると自分の選択に執着する人のほうが多いのが実際でしょう。
私はポスターで「流出しています！」を見かけましたが、「で？」です。これ以上私たちにできることはありませんし、主張をする相手を間違っている区に対して反感を覚えました。それこそ区のお金と時間は税金から捻出しているのに、勿体ない。
制度があるから悪いのです。
国に意見することは大賛成です。合法に示された選択肢を行使しているだけの区民を責めている場合ではありません、粛々と国に異論を発してください。

- 杉並区への納税を希望しているので、他の地域への納税には関心がありません。杉並区の発展を願っています。
- 「返礼品競争に参加しない」という方針は実態として税収の減収を招いており納税額が地方に流出してしまう実態への負け惜しみにしかなっていない。
一方で杉並区は「荻外荘」への納税者の芳名展示など、後世に残すべき文化遺産保全に向けた取り組みなど評価すべきことも行って来ていると思う。
例えば都や近隣市区と共同で観光資源への優先参加権や自然遺産、文化遺産への特別参加プログラムなど、外部の人が杉並区や武蔵野地域に来てもらって活性化するような内容の納税プログラムを作るなど、国への提言以外の納税者インセンティブ施策を期待する。
- いつも言われていることではあるが、本来の趣旨からはずれ、返礼品競走になっている今の状態はおかしくなっていることだと思います。制度そのものを変更ないし撤廃すべきであろうと思います。
- 非常に難しい問題だと思いますが、税金の使い道が分かれば利用してみたいです。
- 実際には返礼品目的の寄附が大多数を占めていることから、住民税の流出を問題視するのであれば、制度本来の趣旨にこだわらず、他の自治体同様に返礼品に力を入れる事も現実的な対応ではないだろうか。
- 「ふるさと納税」される県が片寄りすぎているので国としても再検討が必要です。「寄附」自主的な寄附は厳しいでしょう。また寄附の資金用途の内容についてもそれぞれ自治体で異なるのでそれなりの問題点がある。確定申告の時に今ある復興特別所得税を将来違った方で徴収するのもいいのかな？
- 「ふるさと納税」の美名の下に”No taxation without representation”との税の基本原則から逸脱したおかしい制度である。しかし現に税制として存在しており、濫用の弊を縮小するよう、住民税からの控除の限度の縮小、返礼品の上限の段階的引き下げを目ざすべきである。
- 区への「ふるさと納税」のとり組みをもっとアピールしていただきたい。
- ・杉並区が目的別寄附を募っていることは知らなかった。荻外荘や日フィルなど杉並らしい文化財や団体を応援するのは区らしさを維持していく上で重要だと思う。但し、こういったシステムの周知が低く、工夫が必要である。
・杉並区だけがふるさと納税に異を唱えても、大きな効力はないので23区或いは他の住民税流出自治体と組んで国に働きかける必要がある。
・合法的脱税制度になっているので、制度自体に抜け道がない様に見直すべき。
- お米が頂けるのでその分をふるさと納税していました。
住んでいる区にとってマイナスになることとは知りませんでした。止めようと思います。
- ふるさと納税が寄附である事を知らない人も多く、返礼品目当てに何十件それぞれ異なる自治体にふるさと納税をしている人を見ることがあります。
本来の目的にそぐわない制度は見直す必要があると思う。地域(地方)を応援する良い制度とは感じる。
昨年度寄附した自治体には今年は寄附できない。自治体自身も受け入れる額の上限を設けるなどできないのでしょうか。
- 添付資料(広報すぎなみ)を読み、ふるさと納税について、嫌悪感を抱くようになりました。杉並区での寄附についての案内を「ふるさと納税」と表現されるのも少し抵抗があります。もし、荻外荘の復原、整備のために寄附を募るのであればご協力したいと思っています。「ふるさと納税」という言葉は使用せず、明確に募金先を案内していただきたいです。杉並区は他に誇れる美術館が存在しないのが残念です。荻外荘がそれをカバーできる様な有名な財産となることを願っています。
- 初めはふるさと納税は好きなものがもらえるので良いと思っていたが、どれが得かという事ばかりマスコミが紹介してあさましく思えてきた。返礼率は正しく守り、一世帯あたりのふるさと納税の金額は払った税金ではなく、同じにしないと益々格差社会を感じる社会になると思う。泉佐野市みたいな所は厳しく処分してほしい。
- 広報すぎなみにもっと紙面を割いて目立つようにアピールすればよいと思います。
杉並区も魅力的な返礼品があればよいかと思っています。

- 正直、ふるさと納税＝返礼品で決める人が多いと思います。
区民が今住んでいるこの杉並区のために今こそ何が出来るか改めてふるさと納税のことを考える時なのですね。私は“なみすけ”がかわいくて大好きなので、できれば杉並区に寄附したらなみすけグッズ付きの防災グッズなどが返礼品としてもらえると、きたるべき大震災にそなえてとても役立っていると思いました。返礼品競争には参加していないとのことですが、イザという時に自分の身を守るべきのための防災グッズ(なみすけ付き)を返礼品にはいかがですか？それなら皆さん大変役に立つし喜ぶと思うのですが。
- 税金が高すぎるのに問題の根本がある。ふるさと・お世話になった地域、地方に寄附でき、応援できる制度はとても良い。今後も住民税の区の使い方に注目しつつ、ふるさと納税もしていくつもり。
- 問18にあるような理由(郷里への恩返し)をもってふるさと納税を利用しています。杉並区 of 取組(同制度へ反対)は、正直に申し上げて、反対のポスターを作成したり、その方が税金のムダ使いではないでしょうか。利用者が同制度を利用する理由がどこにあるか、当アンケートやほかの調査なども調べて、魅力のある税金の使い方を考えてください。以前の杉並区は、全国に先駆けた取組を色々行い区民にとって誇らしかったですが、最近はその様な取り組みもなく残念です。
- ・税金の控除は必要ない。
・この頃地方の親族を呼び寄せ都会で介護する話がある。
・難しいことだと思う。
・貧しい子や孫へ小遣いを与えるのは生活補助の寄附か。
・無知なので「税のこと」「毎日の財布の中身の使い方」「理屈、ルール」わかりません。
- 杉並区の制度に魅力的な返礼品があればやりたいです。
- 「ふるさと納税」は確かに返礼品も魅力的ではありますが、予算の少ない地方の為に何か役立つのではないかと感じてやっていた。チャリティー精神もけっこうですが、寄附は区民の生活にはつきりとわかるような使い方を考えて欲しいと思います。
- その人の心から応援する純粋な”ふるさと納税”であるべきだと思います。返礼品は全て撤回し、“気持ち”を大切に、また、住んでいる自分の町も大切にすべきだと思います。過去一度ふるさと納税をしましたが、私自身よく考えることとし、現在やめています。
- ふるさと納税は財源が乏しい地方自治体にとっては希望の光だと思います。地域の特色を生かした返礼品を用意すること自体は悪いことではありません。返礼品の条件が見直しされた現状においては杉並区もぜひ積極的に増やすためにも前向きに取り組むべきだと考えます。自由な競争がある所に創意工夫が生まれ、活力がでるものです。杉並区内の事業者から返礼品を公募し、区民が投票して選ぶ制度を検討していただけたらと思います。策を講じず減収を嘆いているだけでは現状は変わりません。
〈すぐに思いつく杉並区の返礼品候補〉として区内事業者のふりかけセット・マヨネーズ・英語学習教材・くつ・照明・出張将棋講座などの記載あり。
- 日本の50年、100年に及ぶ大課題である少子高齢化、人口減少の動きに政治が手を打てないでいる。「ふるさと納税」は庶民が自治体を通じて次世代対策などに応援出来るわずかなチャンスだと思う。杉並区のふるさと納税を応援してゆきたい。
- 杉並区において区民全体にかかわるものに使うべきである。福祉など弱い立場のものは国、地方自治体を守るべきものであり予算を確保しなければならない。それより区民が住みやすい町、きれいな町を目ざす。幹線道路などの比較的人の出入りの多い所のみ重点を置き整備するのではなく、より多くの区民に還元できるようにしていただきたい。環境整備をすすみましょう。年次計画をつくり、町並みを美しくする。その事は防災の面からもよろこばれる。保育所を作り待機児童0といっても内容がともわなければ無意味。大いに協力したい。
- チャリティー精神を活かすことのできる健全な寄附は本来あるべき姿だと思います。しかし現実には魅力ある返礼品のある地方へと集中してしまう。もちろん最近の過熱ぶりには問題が多いですが、これを逆に活かすという発想にはならないでしょうか。寄附する側、される側、みんなが笑顔になれたらそんなに頑なに否定する必要はないのではと思います。
- 意味が違いますが先日、町内会の会費を集金にこられた時、600円→1,200円、2倍になっていました！会議にも参加せず回覧板も良く読まなかったのは私共が悪いと言われればそれまでですが、書類を見たかったです。寄附も同じかなと思いました。
- ”納税”、”寄附”といった概念が豊かな(経済的な意味ではない)社会を目指す貯金と想うことができる社会が実現することをのぞみます。国税には同様な想いが全く感じられない。

- ・窓口を一つにして返礼品なしで寄附金額を均等に分けたいと思う。(大都市も小都市も同額で)
・ギフトカタログを作成する方が間違っている。(お中元やお歳暮では無い)
- このアンケートを記入するまで、ふるさと納税(寄附)にあまり関心を持っていませんでしたが、問16の選択肢にある「ふるさと納税は税金の使い道を自ら決めることのできる良い制度」という考え方もあると気づかされました。
- 今の世、「ふるさと納税」=ビジネス、「寄附」=心の立位置であり「ふるさと納税」=「寄附」ではない気がします。本来同じでなければいけない。どんなに「ふるさと納税」でお金をあつめても出ていくお金が妥当でなければ(今の世は非妥当)意味がない。本来あるべき姿に戻すことも考えなおしてはいるかがかと思っています。
- 返礼品の為の使い道の為にふるさと納税をすると、目的が違ってきているような気がしますが、元々支払っている税金がきちんと使われているかということが把握できなければ税金を払う方法を考える機会の1つになりかねないと考えます。
- 寄附金の控除は住民税の2~3割までとか上限はないのでしょうか。(的はずれの意見でしたらすみません)比率を見直す時期にはいつているように思うのです。寄附はしても2~3割しか控除されないとだったら負担もしのげる範囲にならないでしょうか。
- 各地域のスーパー、荻窪の複合商業施設や小規模店、コンビニなどにふるさと納税・寄附に関するポスター、リーフレットを設置したり、小学校などで子ども達にふるさと納税・寄附とはどうゆう目的のものなのかわかりやすく解説するセミナーなど行うと良いのではないのでしょうか。
- ふるさと納税の返礼品めあてが実に多く、個人的には正直卑しいかと常々感じています。現在自分が居住している区に納税すべきであって「ふるさと納税」と銘打つのであれば本当に故郷であるとか、実際にその地に住んでいたかの証明なしには納税できないようにすれば良いと思います。そして返礼品をそうした物ではなく何にどう使ったかの説明文書だけにするのも一案。そうすることでかなりのふるさと納税者が減ると思います。税金は住む場所に納め、正しく使われるべきものだと思います。
- 「ふるさと納税」という制度がなぜあるのか分からない。ふるさとへの寄附という気持ちは分かるが、それならば、ふるさとへ寄附もして、今住んでいるところへの住民税も払うべきだと思う。そうでなければ住民税の意味がなくなると思う。
また、地方などは財政が厳しい状況にあるところもあると思うが、「ふるさと納税」に頼るだけではだめだと思う。
地方だけでなく、都市も一緒に地方の活性化をもっと本気で考えていかなければならないと思う。
- TVでも報じられているように、返礼品競争の過熱化や返礼品をもらえない等のトラブルも起きています。今一度、ふるさと納税の正しい在り方を見直すべきだと思います。
- 杉並区はなみすけをもっと活用して、認知や納税の制度を作っていければいいと思います。(ファミリー層や独身女性向けなど)
- 杉並区の「ふるさと納税」に対する考え方に賛同しています。そのため、私は生まれも育ちも杉並区のため、申し訳ないのですが「ふるさと納税」はしていません。杉並区に納税される事になるので。(すみません。杉並区民が杉並区のふるさと納税ができる事を知りませんでした。)世の中はどんどん最新になり、考え方も利益重視になりつつあると思っています。核家族になり、人生の経験から人格形成が養われる大切な経験を失ったりし、奥深い考え方にならない人が多いのではないのでしょうか。
杉並区が良心に訴えても、利益を求め人々には心に届かない様に思います。現在、ネット版のポイントサイトにも「ふるさと納税」サイトがあるくらいですから、意図が分からず自己利益のために利用する方も多いでしょうね。「ふるさと納税」をするならば杉並区も自動的に納税させる仕組みを作ることは難しいのでしょうか？
- 例えば、学校の放課後活動などはNPOを入れる事によって教師の方々は楽になるものの、保護者や子供達には改善ではなく必要になっているケースも見かけられます。そういった所まで監視、チェックする機能を備えてほしいです。
- 納税額が多い人の為の制度に感じます。低所得者にとっては無関係なものと思い情報は他人事のように感じていました。
- ・寄附がしたくなる仕組みや対応策、環境が必要と思います。
・子供のときからわかりやすい環境があればと思います。

- 「ふるさと納税が自治体のお金集めであり、国民は自分が得をしたいがため、思い入れもないところに寄附をしている」というように傍からは見えます。寄附に見返りなど不要かと思えます。”見返りを求めるのは寄附ではありません”と考えます。
- 杉並のふるさと納税または、寄附にお礼の内容として「日本フィルハーモニー交響楽団」とのコラボレーションで杉並公会堂の定期演奏会を中心に入場券、金額によってその場所以外の演奏会などの入場券を返礼する。そのことを強く希望します。特産品のない杉並区の目玉として、可能であれば提供されたらと思います。
- ただ住民税を払うだけではなく、使い道に賛同できるものがあればふるさと納税したいと思いました。周知するのが課題ではないでしょうか。ふるさと納税もいいですが、個人的にはいつでもどうゆう形でお世話になるか分からない自衛隊に寄附が直接できればいいなと思っています。災害や防衛の最前線にいるのにあまり大切にされていない印象を受けるので。
- ふるさと納税で区の収入が減ってしまうことは十分に理解できます。しかし地方で人口も少ない地域がさまざまな手法で収入を増やす努力をしていると思います。そして杉並区に住んでいる人が十分なサービスを感じてないため、他の地域に納税したいと思う人も多くいると思います。なので杉並区に納税してその使い方に満足できるような方法を考えるべきであって、ふるさと納税のあり方を考えている場合ではないと思います。ファミリーや子育て、老人、障害者だけではなく、独身の人たちにも寄りそったサービスが必要なのではないのでしょうか。
例) 杉並区内のみで使用できる金券のようなものを10,000円分を5,000円にかえる。又は杉並区のふるさと納税のお礼に金券を贈るなど。
- 地方との格差解消は大きな課題であることは認識しているが、それをふるさと納税で解消することは新たな不平等、不公平を生むことに気付くべきと思う。また、杉並区はふるさと納税により住民税が流失することの危機感をもっと区民に発信すべきだし、同時に区の支出削減(メリハリある予算)に真剣に取り組むべきではないのか。まずは区議会議員の削減が必要と考えます。
- ふるさと納税の制度ができた当初は自分の棲む自治体の税収が減り、十分な行政サービスを受けられなくなるという思いから、制度を利用してこなかったが、世の中に制度がすっかり定着して、周りの多くの方が制度を利用し、豊かに暮らしているのを見て、昨年度辺りから制度を利用しています。本音では制度に反対しながらも、ここまで世の中に定着すると、区民に理解を求め、自重を期待するのは難しいと思います。東京23区が団結して制度そのものを無くすようマスコミなどを利用して国に求めていく以外道はないかと思っています。
- 一定期間を設けて制度の見直しは必要だと思う。ふるさと納税に限ったことではなく、どのような制度についても検討するべきではないかと思う。問題点を明確にし柔軟な対応をしていくべきだと思う。
- 子供や教育の場に使うと子供がいない人には理解されない。お年よりの介護に使うとなると、自分がその年になるまでその制度があるか不安。0~100歳まですべての人に使えるように住居税等にあてる。
- 制度自体は自治体のアイデア次第で色々なことができる良いアイデアだと思う。ただ、過剰な返礼品競争になっていることは本来の目的ではないと考える。自治体の政策の議論から必要な将来への投資、自治体としては資金調達の方策の1つとして、健全に運用されることを期待している。
- ふるさと納税制度に関して、行政側からその制度の問題点を指摘され疑問を投げかけられる事ではじめて気づかされることのあるのだなと感じました。
- ・納税者と区が互いに結びつきを強めるような寄附の制度であってほしい。
・つまり、販売者と購入者という売買の關係に終始してはいけない。
- 返礼品などの見返りがあるからこそ、ふるさと納税はここまで普及したのだと思う。もともと寄附の文化があまり根付いていない日本では、所得の増えない今は特に純粋に寄附したいという意識はうすいのではないか。このような取り組みに注力するよりも、本来の住所地に納税する仕組みに全国的にすべきだと思う。

- 現在の「ふるさと納税」はお礼競争となっており、本来の目的からズレてしまっていることは認識しているものの、お礼品、節税を生活の一部として考えている為、使わざるを得ない状況である。(多くの区民が同じ状況だと思う)国が大きく制度を変えるか、もしくは杉並区民が納税したことでメリット(公園ができる、文化施設等が整備される等)を享受する実感ができないと現状を変えるのは相当難しいと思う。NPO支援や被災地支援は区を通さなくても個人や他団体を通じて出来るものなのでわざわざ杉並区を通すメリットが今一つ理解できない。杉並区で寄附された資金であれば杉並区のために使うべきではないか。その方がシンプルでわかりやすい。
- べき論と経済合理性(返礼品)のどちらかで闘ったところで、多くのヒトが、べき論にかたむくことは考えづらい。ほかの市区町村と同様に魅力的な返礼品を取り揃え財源確保することについて、プロ/コン(長所と短所)を検討したのであれば、その検討内容を区民に公開し、検討してもらうのはどうか。
- ルールが改正された中のふるさと納税は利用するか、考えて行きたい。過渡期かとも思うが、税金の使われ方に注視したい。解りにくい物も多いので。
- ・マスコミでも取りあげられた返礼品競争は程度の差こそあれ、いまだに続いていると感じます。
・本来の趣旨に従い、「ふるさと納税」は税金の控除のみで返礼品を一斉中止すれば良いと考えます。
- 返礼品に特化したふるさと納税は最終的に本質が見えない形になるので見直しは必要だと思う。納税の意味、納税の用途をより明確にし、より有効に使う方法を行政から提案していく姿勢が大事。あとメディアをまきこんで認知度UPをはかることもいいのでは？
- ふるさと納税は制度の廃止が望ましい。
- 競争がおこっている以上、参加しなければ杉並区の税収が減る一方になってしまうので改革が必要だと思います。
- 「ふるさと納税」はまったく不要な制度であると思います。(受けることができる行政サービスを放棄してもらえればかまわないですが現実無理だと思います。本制度は不公平以外のなにものでもありません。)
- 区民税が流出しているという話はよく聞かすが、全体の何%なのか知りたい。地方への寄附になってよいとも思っている。
返礼品がおかしなことになっているなどは思うが、魅力的な返礼品があれば寄附よりそっちを選んでしまう。制度を中止にするしかないのかなと思う。
- 税金の支払い方(使い方)を納税者が決められるのがいいな。
- 都市と地域のバランスがとれた制度になるよう願っています。
- ふるさと納税についての知識があまりなく、良い面ばかりに目を向けていた。しかし、くわしく調べてみると、区に税が回らなくなること、地方に納税することにより、住んでいる地域の行政サービスの低下をまねいてしまうことなどを知った。このように良い面ばかりしか知らない人は多いと思うので悪い面もあることを住民に知ってもらわなければならないと感じた。

※個人名や企業名、又は企業名を特定できる表現は、修正させていただきます。

令和元年度第1回
区政モニターアンケート
集計結果報告書

登録印刷物番号

31-0057(1)

令和元年10月発行

編集・発行

杉並区総務部区政相談課
〒166-8570
杉並区阿佐谷南1-15-1
TEL03-3312-2111（代表）

再生紙を使用しています